



ソフトバンクグループ株式会社

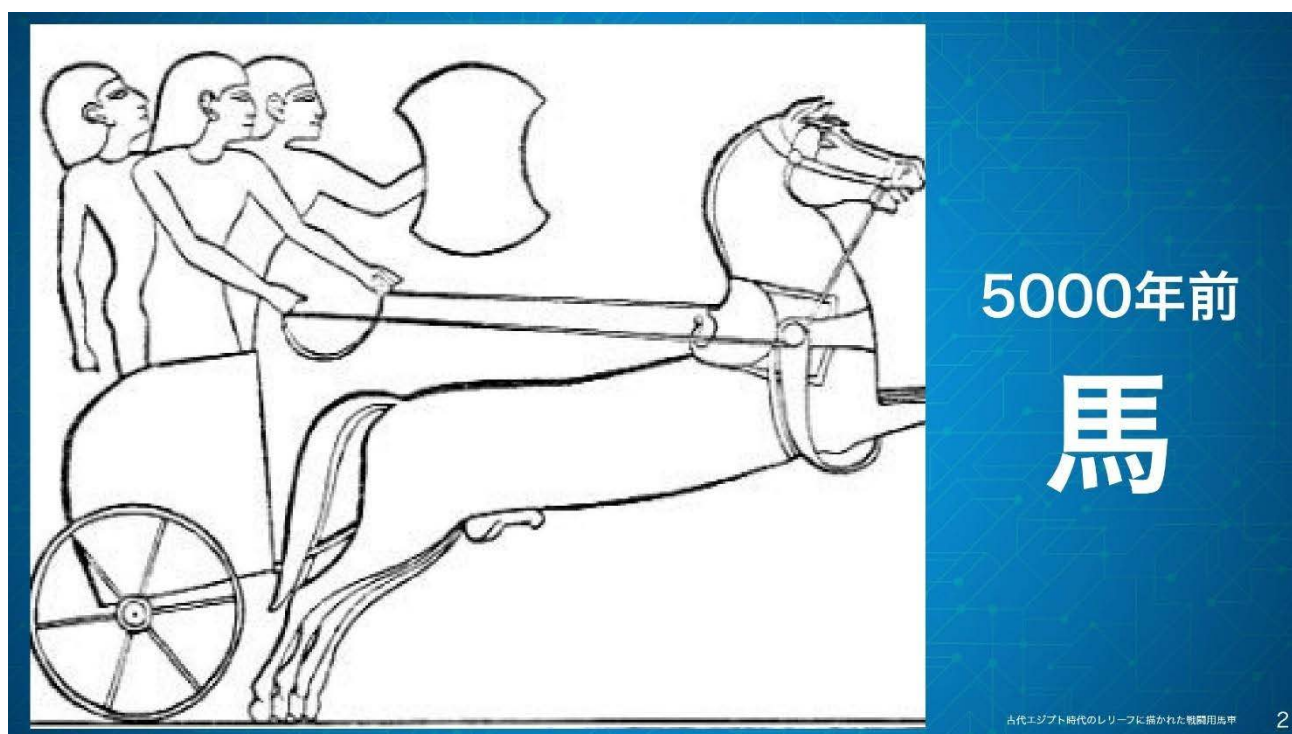
2021年3月期 第2四半期 決算説明会

2020年11月9日

登壇

孫：まだコロナの状況は収まっていない、むしろ第2波、第3波と、世界が大きな問題を抱えた状況ではありますが、ワクチンの開発もだいぶ進んでいます。きっともうじき世界情勢は改善するのではないかと願っています。この冬は、ワクチンの普及は叶わないと思いますが、来年の秋ぐらいまでには、世界中がいろいろな意味で落ち着きを取り戻すのではないかと願っています。

このような難しい世の中ではありますが、別の意味で私は最近ワクワクしています。それは時代の進化です。時代の進化に対して、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）とは何で、これからどこに、どのように向かうのか、おそらく疑問に思っている人がたくさんいると思いますので、そのあたりにも今日は触れていきたいと思います。それでは早速説明します。



こちらの絵を見て何を思われますか。馬に乗った人々がいます。これは約5,000年前の古代エジプトの遺跡にあった絵です。つまり人類は5,000年も前から馬を使って乗り物として移動していたということです。



100年前 エンジン

3

こちらは、100年ほど前に大量生産され世の中に普及し始めたT型フォードの写真です。5,000年の歴史の中で、つい最近と言っても良いぐらい最近の話ですね。

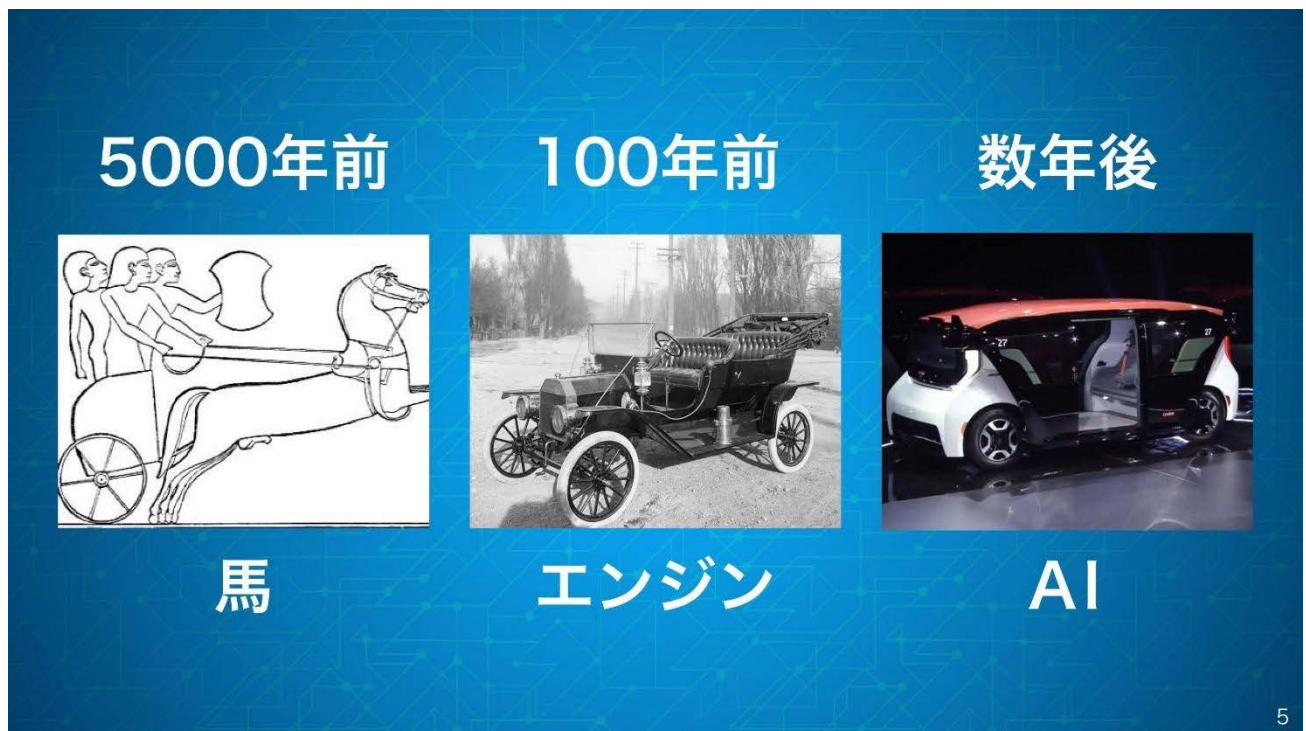
つまり、量産化された自動車が、乗り物として一般の人々に普及し始めてから、たったの100年しかたっていないということです。5,000年の歴史の馬車と100年の歴史の自動車です。



数年後 AI

4

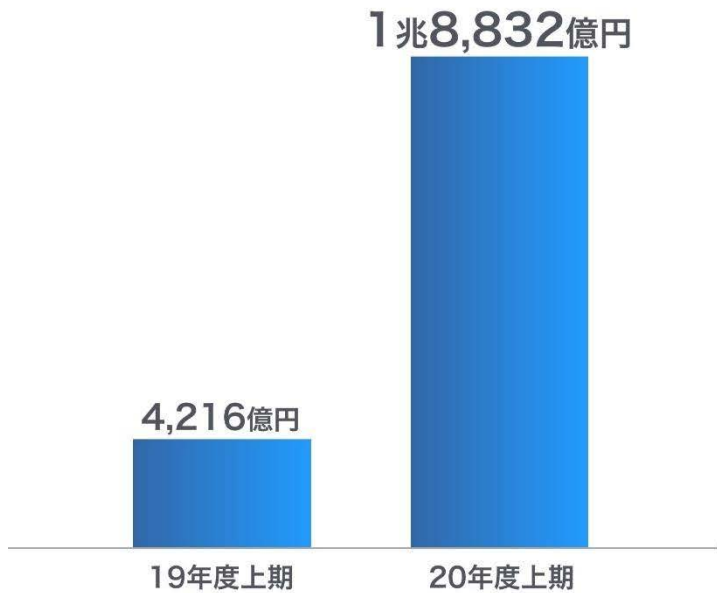
この自動車が、さらにこれから一気に変わります。AI を使って、自動車が完全自動運転をする時代があと数年で始まります。われわれの投資先でグループ会社の Cruise と Nuro の経営陣トップと先週も Zoom で話をしました。私は自動車の完全自動化には5年から10年かかるのではないかと思っていたのですが、それよりもはるかに早く、ほんの数年前には自動運転車が大量生産されて、世の中に出回り始めるということです。想像したよりも早く、その時代が目の前にやってこようとしています。



5,000年の馬車、100年の自動車、そして今から数年前に始まる、AIによる完全自動運転の世界が目の前に迫っています。先ほど時代の進化にワクワクすると申し上げましたが、このことを事例として言いたかったわけです。

それでは、早速業績の説明を行いたいと思います。今回業績のページは2ページだけです。それ以外のたくさんあるページは、業績以外のことを話します。そのつもりで見ていただきたいと思います。

当期純利益

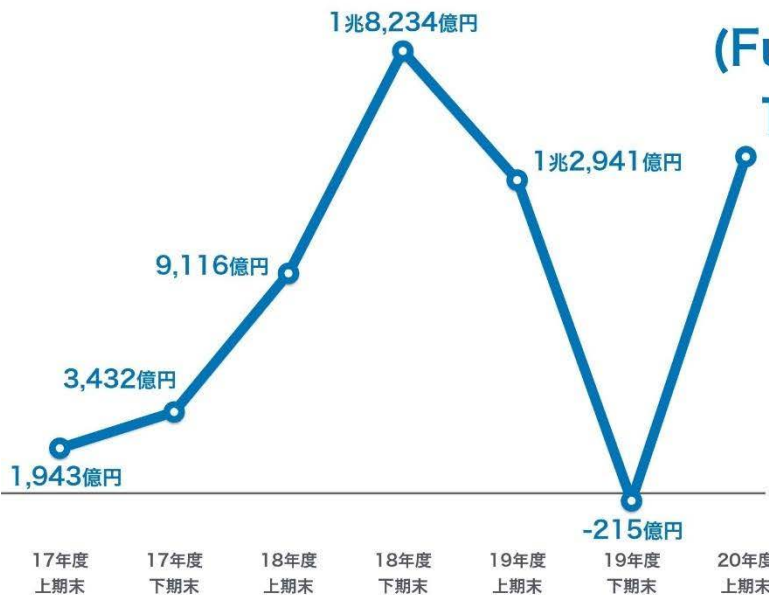


前年比
4.5倍

当期純利益：親会社の所有者に帰属する純利益 7

業績1ページ目は、純利益です。4.5倍。去年が上期4,200億円でした。今年は1兆8,800億円でした。純利益の内訳を一つ一つ説明すると、一時益がいくらで、一時損がいくらで、継続的利益がいくらでと言出すと、説明がややこしい。

ビジョンファンド事業 投資損益 (累計)



反転回復

Fund1, 2合計：SoftBank Vision Fund 1とSoftBank Vision Fund 2の合計
投資損益：デリバティブ関連損益含む
ビジョンファンド事業：SVF1等SBAの運営するファンド事業
デジタルファンドの影響を含む 8

一言で去年と何が違ったかという、一番はソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）の業績です。でもこのグラフをよく見ると去年の上期も1兆3,000億ぐらいであり変わっていない

ですね。去年の下期が悪くてズドンとほぼゼロまで落ちました。でも今年の上期はまた改善して1.4兆円ぐらいの利益。これはSVF1とSVF22を足した合計の損益がこのように改善したと。

特に今年の上期、SBG史上最大の赤字を出しました。真っ赤っ赤の赤字の決算でした。SVFもWeWork問題などいろいろあって、「もう大赤字だろう」と言われておりましたが、大赤字というより実はちょうどゼロになった。累積の利益がちょうどゼロになったのですが、また1.4兆円近くまで改善したということです。

それ以外の部分は、今年の上期にはスピリットのTモバイルとの合併とか、その他いろいろあったということです。

ソフトバンクとは？

9

でも業績は、純利益は大雑把でいい、売上も大したことない、営業利益なんてもう発表すらする気もなくなりましたということです。じゃあ、ソフトバンクとはなんぞやということです。



情報革命への投資会社

10

われわれが創業以来、1日も1度も変えていないのは理念である「情報革命で人々を幸せに」、これ1本です。仕事のやり方は変わってきましたが、SBGとしての思いは変わっていません。

最初はパソコンのソフトウェアの流通、卸売、そして出版、展示会。パソコン文化が人々に広がるようにお手伝いをしてきた。それからインターネットが始まると米国のヤフーに出資をし、ジョイントベンチャーをつくって、ネットバブルを2000年に迎えました。いろいろなインターネット関連の会社に投資を行いました。

そのとき、上場会社になって間もないSBGが、もう純利益とか営業利益とか、そんなの関係ないと言って、無視して、まだ利益の出ていないインターネットの会社にたくさん投資をしました。それからネットバブルがはじけて大ごとになったわけですが、なんとか生き延びて今日に至るということです。

ですから、仕事のやり方は途中で何度も変わりましたが、変わらないのは「情報革命で人々を幸せに」という理念と情報革命の一員であるということです。特に最近SBGは、通信の子会社のソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）を上場させました。彼らは自らの使命をこれから全うしていくのですが、そうすると、親会社のSBGはもう事業を直接やっていないから、何なんだということですが、一言で言えば情報革命への投資会社になったということです。



AI革命への投資会社

11

さらに言いますと、ここから先は同じ情報革命でも AI 革命への投資会社になるということです。これ 1 本です。SBG はどこに向かうのかと言うと、AI 革命への投資会社としての姿にどんどん専念していく。

このビデオを見ていただきたいと思います。1 分間くらいですが、2008 年、今から 12 年前の決算発表で話した内容です。

映像：このページがわれわれにとっては大切なページなのですが、おそらく今後 10 年間、われわれの継続的なキーワードとして繰り返し出てくるキーワードだと思いますので、ぜひ共有したいと思います。「モバイルインターネットを制する者がインターネットを制する」そして、「アジアを制する者が世界を制する」、この 2 点です。

孫：若かったですね。でもあのときからあんなに薄かったのか。改めてビデオを見て、えっと思ったのですが、もうちょっとあったような気がするのですが、そんなことはともあれ。

**モバイルインターネットを制する者が
インターネットを制する**

アジアを制する者が世界を制する

 **SoftBank**

2008年5月8日

12

とにかく12年前から申し上げていたのはこの1ページです。「モバイルインターネットを制する者がインターネットを制する」と「アジアを制する者が世界を制する」と。1 少なくともSBGの業績を見るとおそらくあのときの読みは正しかったのではないかと思います。

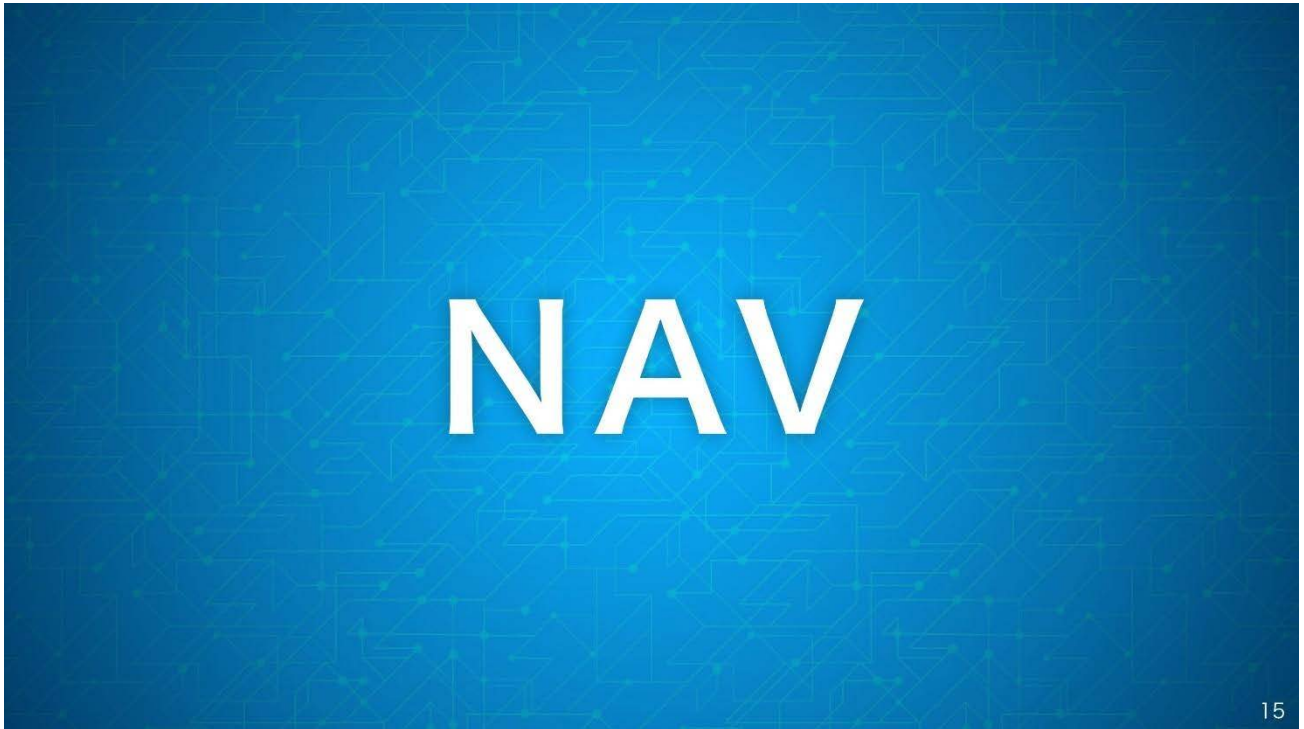
 **SoftBank**
Group

AIを制する者が未来を制す

2020年11月9日₁₃

それが過去 10 年間の話ですが、次の 10 年間どこに向かうかと言うと、「AI を制する者が未来を制する」と私は思っています。そこでわれわれ SBG は先ほど申し上げた通り、AI 革命への投資会社になる。

先ほど、決算説明会なのに業績説明はたった 2 ページ、しかも適当な説明で力の入らない説明でしたが、それはなぜかと言うと、そこに私のこだわりは実はないからです。純利益が 1.8 兆円、そこに私の執念やこだわりはありません。



何にこだわっているかと言うと、この 1 点です。NAV です。この 1 点だけが SBG の業績の結果を表す物差しであり、これ以外は全て関係ない。そのくらい 1 点を見つめて経営をすべきだと思っています。NAV は Net Asset Value の頭文字です。今日、コロナの時期なので代表して記者の皆さんをお呼びしていますが、NAV の意味、ご存知ですか。NAV を知っていた方、手を挙げてください。3 人、4 人ですね。NAV という言葉は普段あまり使わないですが、これを説明します。

株主価値

=

保有株式

-

純負債

16

最近 SBG は、株主価値が一番大事なんだと、何度も決算説明会で申し上げてきました。株主価値というのは、保有している株式から純負債を差し引いたもの、これが株主価値だと申し上げていました。

(Net Asset Value)

NAV

時価純資産

=

保有株式

-

純負債

17

投資会社の最重要指標

この株主価値が今日申し上げた NAV、Net Asset Value = 株主価値ということです。孫が NAV という、また訳の分からない新たな物差しを出してきたと、都合が悪くなると自分の都合のいい物

差しばかり言い始めると、時々口の悪い方がおっしゃいますが、変わったのではなく同じです。株主価値 = Net Asset Value です。

投資会社ですから、保有している株から借入を差し引く、これが時価の純資産です。これがいくら増えたのか、いくら減ったのか、これのみが、投資会社として業績を測るべき物差しだと思うわけです。これがどのくらいのスピードで伸びているのか、どのくらい借金過多になってしまったのかをチェックすればいい。この1行でSBGの業績が分かる。

時々SBGの決算短信とか決算資料を見ても、複雑すぎて訳が分からない、素人が手を出しちゃいけない株と、にわか玄人のような人が言いますが、それは見る場所を間違えているのではないかと思うのです。SBGは全然複雑じゃなくて、むしろシンプルすぎるくらいシンプル。たったこの1行、他は全部誤差。会計上は正しい決算にしているのですよ。

例えばアリババの株価が増えます。これは決算書の純利益には1円も反映されません。しかし、われわれが保有している、例えばウーバーなどのSVFで保有している他の株が上場しました。この株が上がった、下がったという、われわれの純利益にそのまま反映されるわけです。おかしくないかと。

同じ投資会社として持っている株式で、片方は純利益に反映される、片方は純利益に反映されない。何が違うのだという、25%以上持っているから反映されるとかされないとか。でも待てよと、25%以上持ってもSVF経由だったら純利益にカウントする。もう訳が分からないですね。正しい決算をしているのですが、決算説明資料を見てもむしろややこしくなるだけだと。

(Net Asset Value)

NAV
27兆円

=

保有株式
31兆円

-

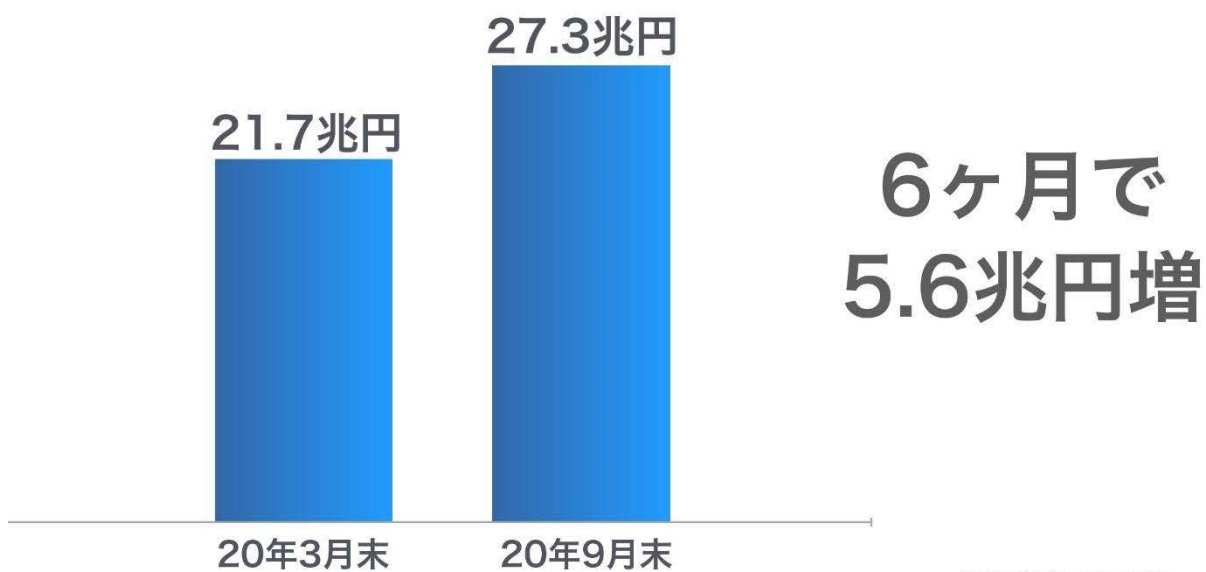
純負債
4兆円

投資会社の最重要指標

この1行で見ると分かるというのがこのNAVです。Net Asset Value、つまり株式時価純資産。われわれが持っているのは27兆円です。27兆円は何かというと、われわれが保有している株の総合計が31兆円から借入の4兆円を引いたものです。この借入もSBG連結バランスシートを見ると、SBGって借入がもっとあったのではないかとと思われると思います。もっとあるのです。しかし現金も合わせて持っているから借入から現金を差し引いたのが純有利子負債です。

連結バランスシートの中には、SBKKのものも入ったりしていますから、これまたややこしいのですが、SBKKは上場している独立会社ですから、そちらはSBKKの業績で見ればよい。SBGの業績を見るのはもうこの1行だけでいい。投資会社なので、投資して持っている株式の価値から負債を差し引く。この27兆円のNAVがいくら増えた、減った、これだけを見ればシンプルに業績の結果が分かるということです。

NAV (Net Asset Value)

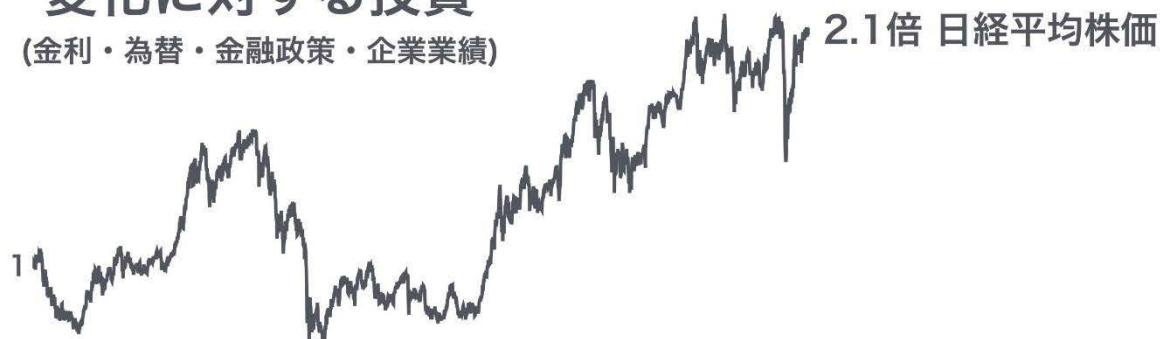


9月末のNAVは27兆円でした。半年前は21兆7,000億でした。この6カ月間で増えたNAVが5.6兆円、約6兆円です。純利益は1.8兆円増えたのですが、われわれが保有している株式時価純資産、Net Asset Valueは、6兆円弱増えた。これがSBGの業績を表す一番適切な指標ではないかと思っています。これをもう少し長期中で俯瞰してみたいと思います。

指数の比較 (過去18年)

変化に対する投資

(金利・為替・金融政策・企業業績)



リーマン アベノミクス

2002年
4月

2008年
9月

2013年
1月

2020年
9月末

2002年4月1日：2002年4月1日終値（日経）
2008年9月4日：2008年9月4日終値（日経）
2013年1月31日：2013年1月31日終値（日経）
2020年9月30日：2020年9月30日終値（日経）

22

まずこの18年間で日経平均株価がどのように推移したかを見ていただきたいと思います。2.1倍です。この18年間で2.1倍に伸びたと。1が2.1になった。途中でリーマンショックがありました。日本経済がもうガタガタになっていたわけですが、アベノミクスの辺りからまた改善をしました。

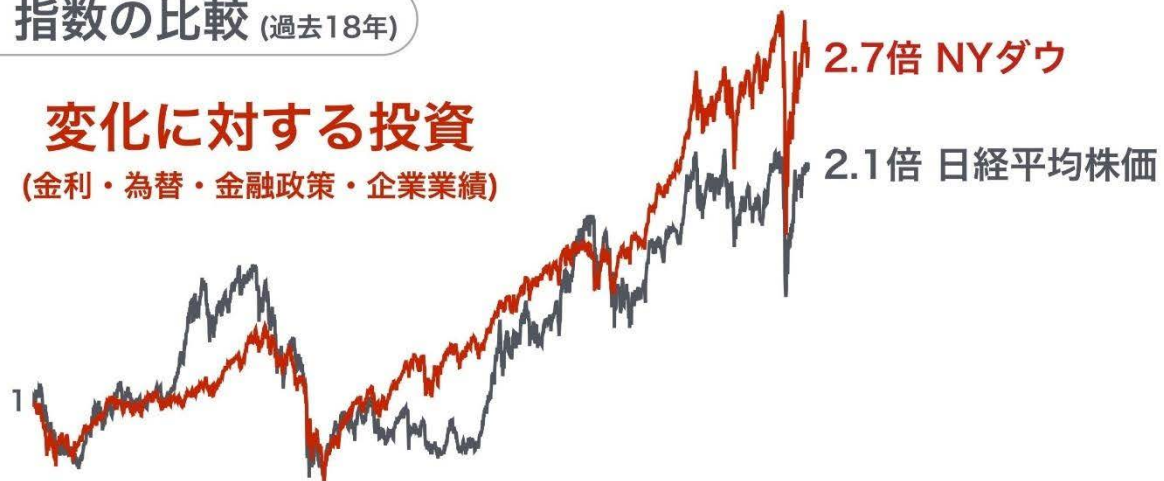
何が原因で日経平均株価が上がったり下がったりしたかという、そのときの金利、為替、金融政策、あるいはそれぞれの企業の業績です。

つまり変化に対して、いろいろな投資家が、今度金利がどうなる、大統領がどうなるなど日々入ってくる変化に対する情報に対して株を売るか買うか意思決定をする。変化に対する投資を行ってきたのがこの18年で2.1倍になった。

指数の比較 (過去18年)

変化に対する投資

(金利・為替・金融政策・企業業績)

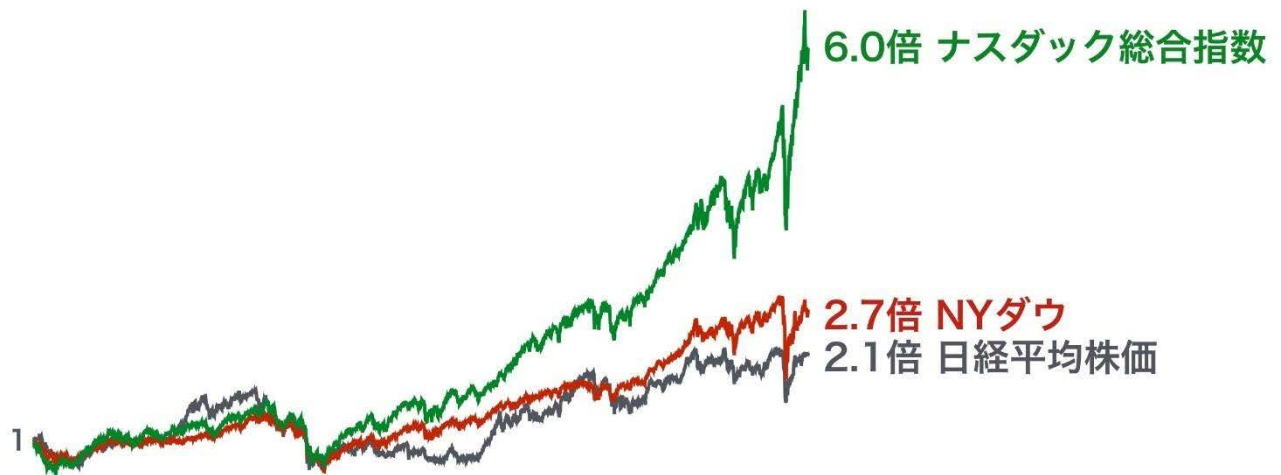


2002年 4月 リーマン アベノミクス 2020年 9月末
2008年 9月 2013年 1月

2002年4月1日：2002年4月1日終値（日4）、2008年4月1日終値（日4）
2020年9月末：2020年9月30日終値（日4）、2020年9月30日終値（日4）
（出所）S&P Capital IQ 23

では、同じ時期に NY ダウはどうだったかというと、2.7 倍でした。リーマンショックで世界中の株価が下がりましたが、NY は日本よりももう少し大きく反転しました。

指数の比較 (過去18年)



2002年 4月 2008年 9月 2013年 1月 2020年 9月末

2002年4月1日：2002年4月1日終値（日4）、2008年4月1日終値（日4）
2020年9月末：2020年9月30日終値（日4）、2020年9月30日終値（日4）
（出所）S&P Capital IQ 24

アメリカの株式市場は NY ダウを見ればそれでいいのかというと、実は、GAFA が上場しているナスダックは 6 倍に増えているわけです。ですからアメリカの株式市場は 2.7 倍に増えたというよりも、NY ダウとナスダックを足して見るべきだろうと私は思うわけです。では、6 倍かと、なん倍

指数の比較 (過去18年)

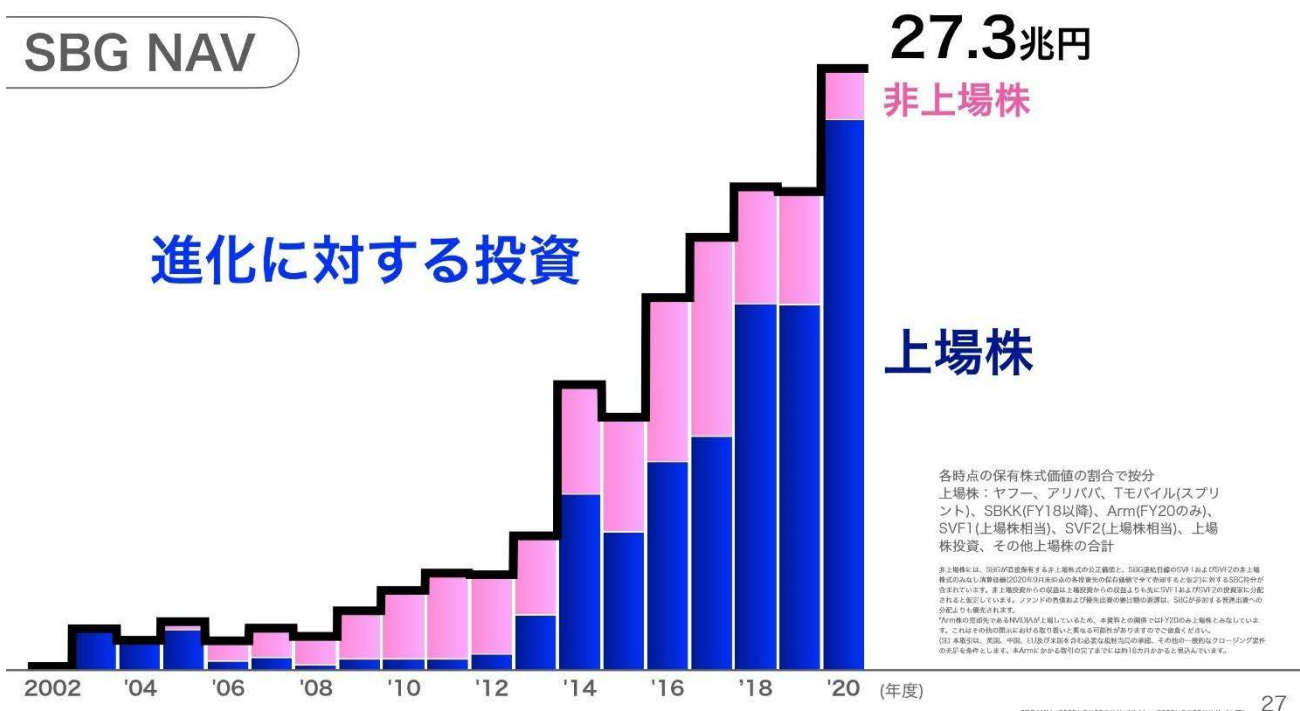


何が違ったかということ、SBG、孫正義は、変化に対する投資を考えたことは1度もないのです。進化に対する投資だけを行ったのです。変化に対する投資は上がったり下がったりです。進化に対する投資は若干のデコボコはあっても、進化するものは後退はしない。進化した産業から後戻りするという事は、実はあまりないのです。だからほぼ一方的に上がっていった。

途中で若干のデコボコはもちろんあります。リーマンショックでも若干の影響は受けましたが、誰が大統領になったとか、Federal Reserveの金利政策がどうなったかに対して、若干の影響を受けますが、実はあまり関係ない。テクノロジー業界全体が進化したということです。

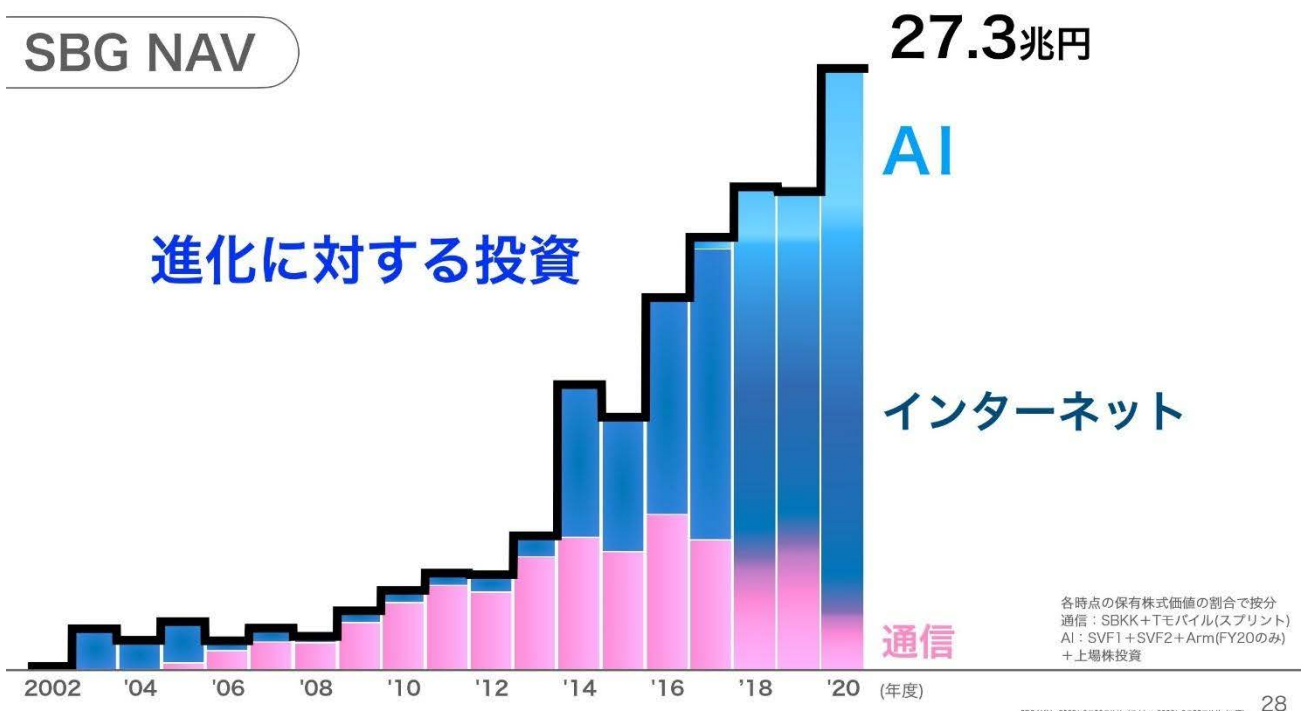
SBG NAV

進化に対する投資



157倍の内訳はというと、先ほどビデオを見ていただきました、12年前のビデオです。「モバイルインターネットを制する者がインターネットを制する」。少なくともSBGにとっては、通信のところを一気に行ったわけです。これは上場株と未上場株、27兆円のNAVと言っても90%は上場株ですから、SBGが適当にこれだけの価値があると言っていることではない。上場株ですから、毎日市場で売り買いされて、値付けがされていますから、われわれが勝手に値付けをしている価値ではない。

この中のアーム株はエヌビディアに売却し、エヌビディア株を取得することを発表しましたので、便宜上エヌビディアの株＝上場株としてアームの分はもう換算をしていますが、少なくとも90%ぐらいは上場株で、われわれが鉛筆なめなめ勝手に言っている価値ではありません。



先ほどビデオを見ていただいたのは、このことを言いたかったからなのですが、「モバイルインターネットを制する者がインターネットを制する」と言ったようにピンクの通信の部分はモバイルインターネットを指しています。

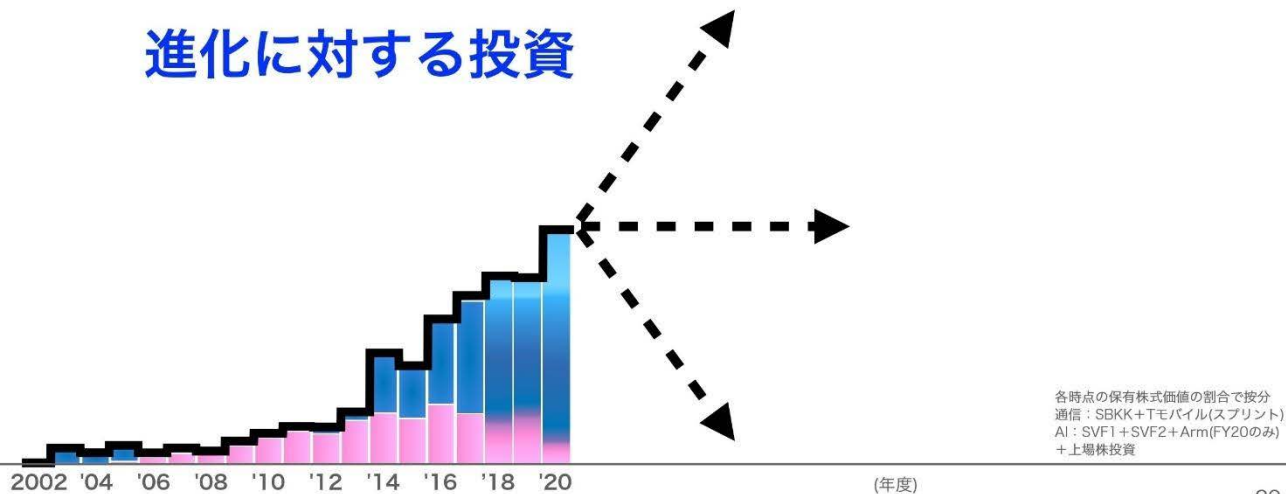
iPhone が発表される前に、私がスティーブ・ジョブズに会いに行き、「これから携帯電話はインターネットの時代になる。モバイルインターネットに一番最適な端末を作ってほしい」と言ったら、「マサ、お前から言われなくてもやっておるわい」という返事だったわけです。ソフトバンクも通信でモバイルインターネットに集中しました。

もう一つは「アジアを制する者が世界を制する」と申し上げました。少なくとも SBG にとって、このインターネットと書いてある部分の大半はアリババです。モバイルを制する、アジアを制する、この二つのキーワードのことを言った通り、われわれはそのままこの 10 年間実行してきた。その結果が 157 倍につながったということです。この 2 年間ぐらいは、AI に対する投資ということで、SVF をせっせとやり始めたということです。

アームも AI に特化したチップのメーカーであるエヌビディアに売却することによって、われわれ SBG は、エヌビディアの筆頭株主になるというポジションを得たわけです。これも AI への投資の一環です。

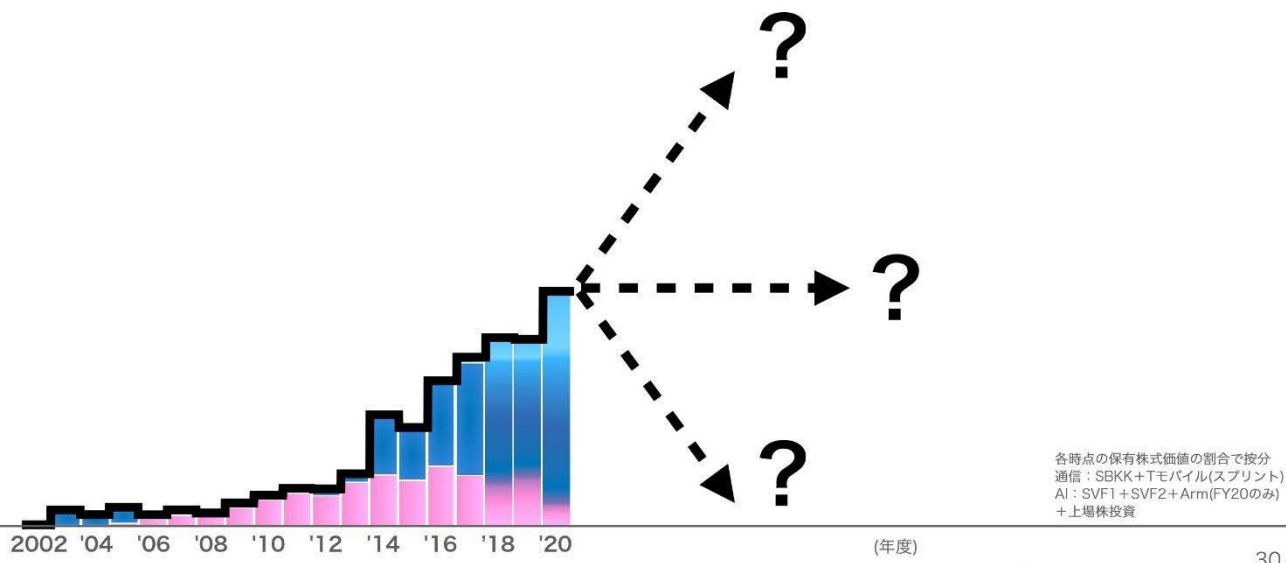
SBG NAV

進化に対する投資



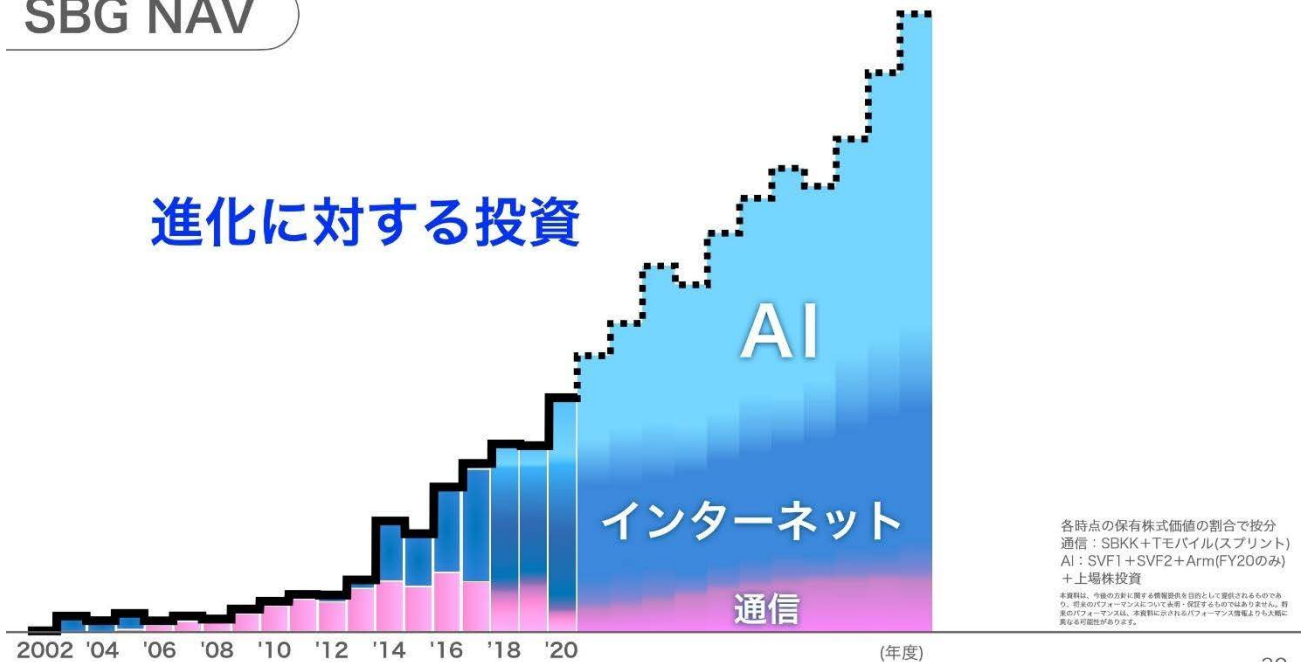
じゃあ、過去の自慢話はいいとしてこの157倍に伸びた27兆円はここから先どうなんだと。上がるのか、むしろこれはテックバブルなのか。最近の動きそのものがテックバブルで今が頂点なのか、それともむしろ上がり続けるのか。これは皆さんが知りたいところではないかと。特にSBGの株主になっている皆さんにとっては、ここから先、上がるのか下がるのか、横ばいなのか、これで毎日、株を買うのか売るのかで自問自答していると思います。

SBG NAV



皆さんにとっては分からないということだと思いますが、私は分からないとは思っていません。私は信じています。

SBG NAV



どのように信じているかという、このようになると信じています。これは約束じゃないですよ。株価は約束じゃなくて、こういうビジョンを持って信じているということです。

何で伸びるのかという、だんだんインターネットとAIの境目そのものが無くなっていく。アリババも今はインターネットカンパニーですが、急激な勢いでAIカンパニーに進化して行っています。次に買う商品のレコメンデーションやアリババクラウドでAIを使った翻訳など、その他いろいろなことをやっているということです。

インターネットカンパニーもAIカンパニーに進化していく。またAIに特化したような会社にもこれから入れていく。このグラフを作ったら、SBKKの宮内社長が「孫さん、うちの事も忘れないでくれよ、通信も伸びるんだ。しかもわれわれは単純な通信ではなくてBeyond Carrierになるのだ」ということで、SBKKは通信会社からインターネットカンパニーになる。特に最近では元々SBGが保有していたZホールディングスを子会社化し、ヤフーもSBKKの子会社に位置付けています。

そのヤフーはLINEと完全合併すると発表しましたので、LINEおよびヤフージャパンが包含されて、ZOZOも仲間に入りました。続々と仲間が増え、通信会社からインターネットカンパニーとしてBeyond Carrierにどんどん進化していくのだと思います。

さらにAI化を彼らが果たしていく。だから色がぼやけているのは、間違っただけでなく、意図的にグラデーションをつけているわけです。

このように、これからも若干のデコボコ、上がったりがったりしますが、下がっても時々ちょっと下がるかなという程度で、方向としてはおおむね伸びると私は思っています。実は私はこのグラフを作るときに、心の中では少し控えめにしたつもりでした。こういうものは二次曲線で普通伸びるからです。実際われわれが二次曲線で伸びたように、今後そうなる心の中では信じています。

3つの懸念

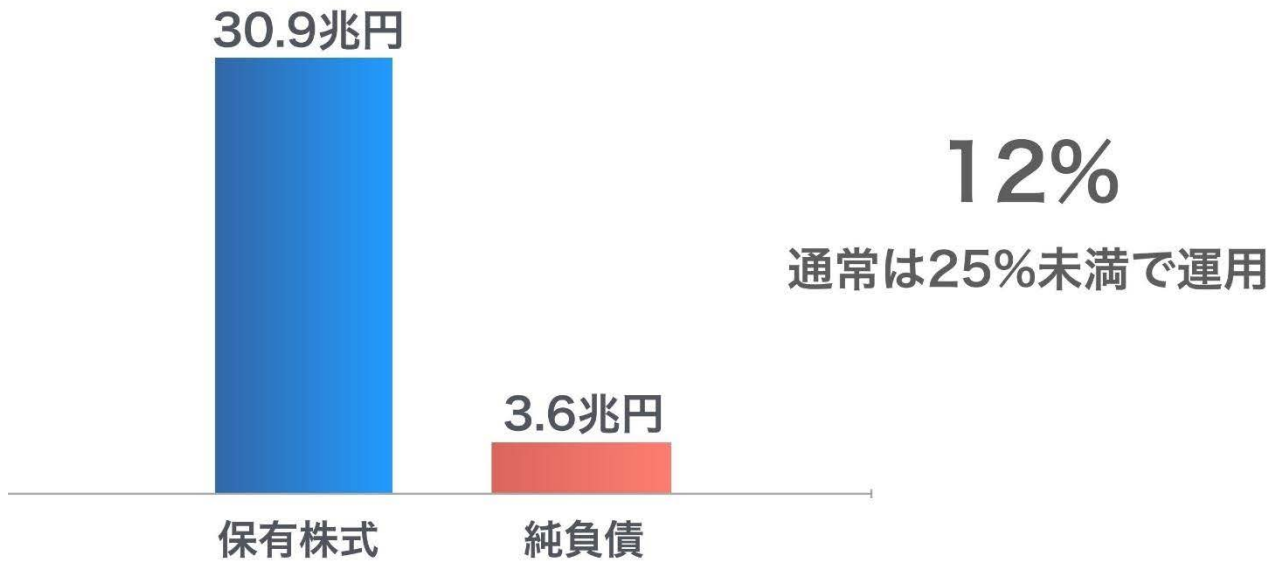


33

そうは言っても、純利益、Net Asset Value が 2 兆円増えたとか、6 兆円増えたとか景気のいい話を言っているが、あのペテンの得意な孫がいいところだけ言っているのではないかと時々批判をされます。

どういうことで批判をされるかというと、大体三つ言われるのです。借入が多いだろうと。価値を適当に言っているだろう、しかも絵に描いた餅でしょうと。最近上場株でデリバティブとかもやっているみたいだけど大丈夫かと。この三つの懸念が頭に浮かぶのではないかと思います。

LTV (純負債/保有株式)



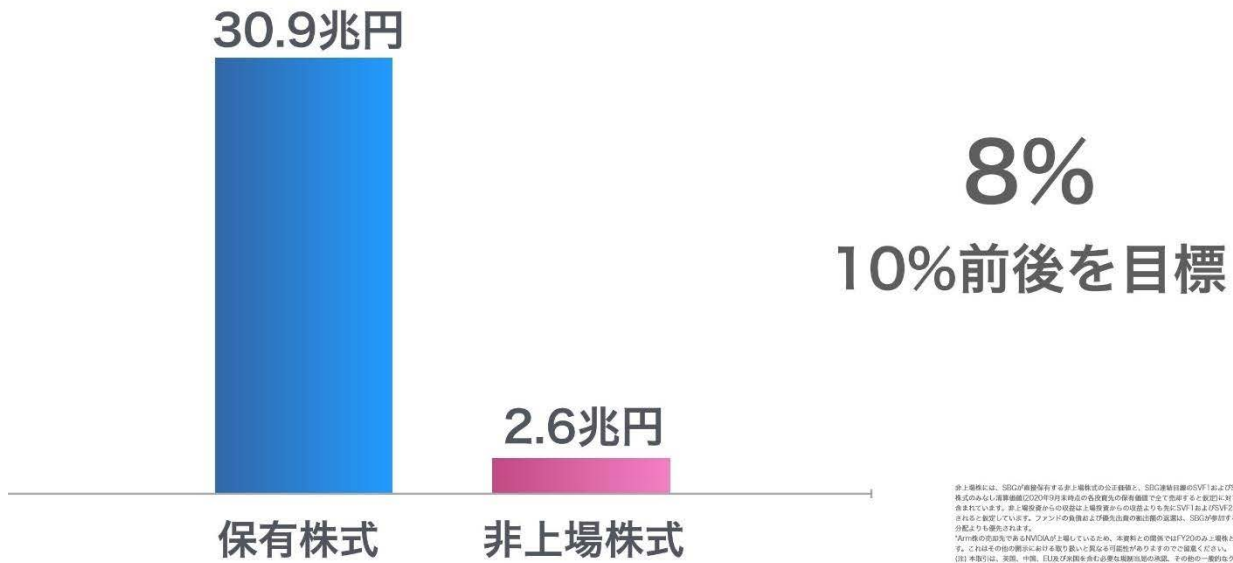
出典：2020年9月30日決算（日本）、2020年9月30日決算（米国）
資料："Sum of the Parts"の定額株主出資法（2020年9月30日時点）、全半期

35

グラフで見るとこうです。約31兆円持っている株に対して3.6兆円。先ほどから4兆円と言っていますが、4兆も3.6兆も誤差ですね。4,000億を誤差と言っている経営者はあまりいないと思うのですが、私は創業1日目から豆腐屋の心意気で、1兆、2兆は誤差の内とおおぼろばかり吹いていましたが、現について先週、アリババグループのアントが上場するとかしないとかニュースが出ると、われわれ20兆円近くアリババの株を持っていますが、10%近く1日で動いたわけです。つまり1日で2兆円ぐらい減ったりするわけです。

今回6兆円増えたと言っていますが、今後の決算で発表するSBGのNAVは四半期、3カ月ごとに、3兆円、5兆円軽く上がったり下がったりします。これがSBGのニューノーマルだと。純利益が2兆、3兆増えた、減った、これは気にしないでください。投資会社ですから、持っている株式の価値が株式市場で5%、10%動くことはあります。30兆円持っていて10%動いたら3兆円です。これはもうSBGのニューノーマル、新しい日常だと、2~3兆円は誤差のうちとぜひご理解いただきたい。

非上場株比率 (非上場株式/保有株式)



非上場株とは、SFGが直接及び間接に非上場株式の発行主体と、SFGが直接及び間接に非上場株式の発行主体の子会社である上場株式の発行主体が保有している非上場株式を指します。非上場株保有からの収益は上場株からの収益よりも先にSVFおよびSVF2の投資家に分配されることと想定しています。ファンドの負債および優先出資の償還の必要額は、SFGが参加する数社出資への出資額より超過されません。

*Amrの売却先であるNVIDIAが上場しているため、本資料との関係でFY20のみ上場株とみなしていません。これはその他の関係にあり十分な保証が得られないためです。

注1: 本資料は、米国、中国、日本及び香港に所在する関係者の提供によるもので、その他の一部のテクノロジー業界の先見を除外とします。本Amrにかかる取引の完了までは約1日以内の更新と見込んでいます。

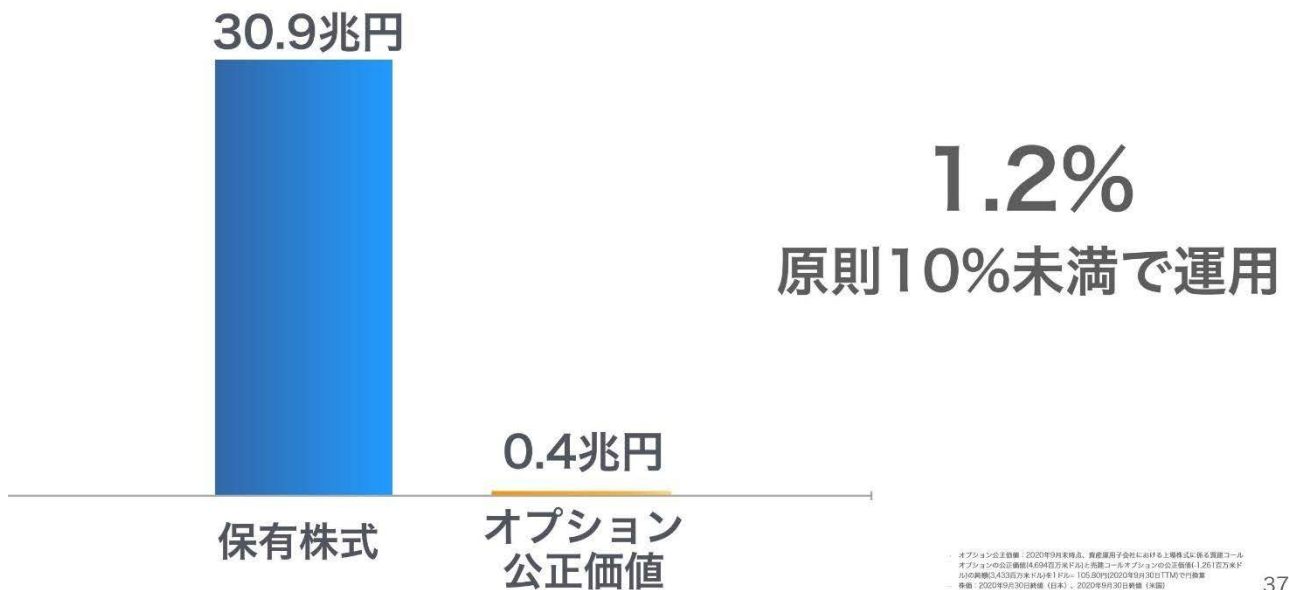
出典: 2020年9月30日最終 (日本)、2020年9月30日最終 (米国)

脚注: "Sum of the Parts"の定義および計算方法 (2020年9月30日時点)、本資料

36

今言いました通り、31兆円の中の90%、これは上場株。非上場という、SVFで持っているものがほとんどです。それ以外のものは、もう大半整理をしましたので、その他というのはほとんどない。SVFで持っている非上場のものが2.6兆円ですが、その中でもこれがお手盛りかということ、全体の中のちょっとですから。ちょっとの中のちょっとぐらい、あんまり目を三角にしないほうが良いのではないかと思います。でもちゃんと計算して、ちゃんと監査法人が監査をしてということ、当然行っています。

デリバティブ比率 (オプション/保有株式)



オプション公正価値: 2020年9月30日時点、買付費用を引いた上場株式の買付費用とオプションの公正価値(4,604百万円)との差額(1,05,900百万円)の合計(1,201百万円)の合計(1,433百万円)を1円=105,900百万円(約100円)で換算

出典: 2020年9月30日最終 (日本)、2020年9月30日最終 (米国)

脚注: "Sum of the Parts"の定義および計算方法 (2020年9月30日時点)、本資料

37

デリバティブ、上場株への投資を開始しました。今テスト運用中ですが、効率を少し良くするために、デリバティブも活用しています。しかしこのデリバティブは、われわれが持っている 31 兆円の約 1% ぐらいです。デリバティブというとすぐに火遊びだと言う人が多いのですが、これも後ほど若干説明しますが、全体の中の 1% です。

これが全部ゼロになったとしても、われわれの財産が 1% 減るだけ。1% のものが倍になっても 1% が 2% に、成功しても 2% に増えましたと。1 が上がろうが倍になろうがゼロになろうが、大勢に異常なしという程度です。

最近われわれが上場株、特にデリバティブを開始したということで、ナスダックの鯨が現れたと報じられましたが、鯨とは、誰のことだと、SBG のことかと私は驚いたのですが。

われわれにとっての 1% がナスダックの鯨と言われるぐらいになったということは、なにか感慨深いなど。褒められたのかけなされたのか、よく分からないのですが。われわれにとっては実は 1% 程度だということです。

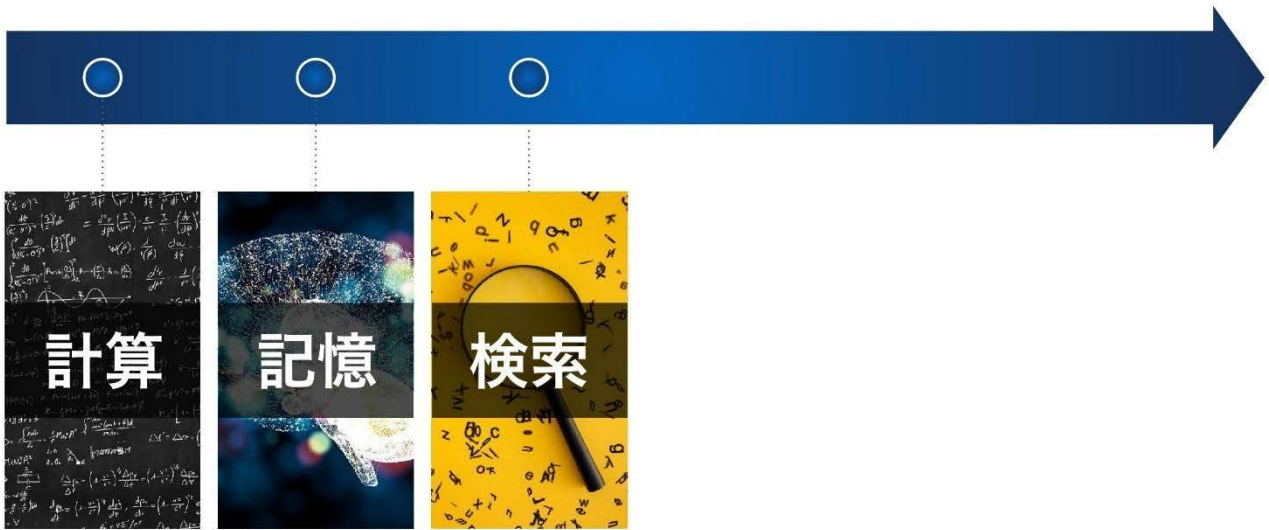


人類の未来はAIにあり

とにかく言いたいのは、人類の未来は AI にある。これを繰り返し申し上げています。

なぜ今 AI かということ、これから説明します。

Computingの6段階



41

コンピューティングの世界には、6つの段階があります。

1番目は計算機としての姿。コンピュータの初期は、計算をするマシンで、スーパー計算機=コンピュータでした。

コンピュータがメモリーチップをたくさん積んで、記憶マシンになりました。たくさん情報を記憶できる、いっぱい記憶すると、これは検索をしたくなります。

検索エンジンの会社が世界のGAFAの中でも大きく、Googleが価値を増大しました。

でも、これからはこのレベルに止まらないのです。次の3段階があります。

Computingの6段階



42

次は理解をする。コンピュータがついに目と耳を持ち、人間と同様に見ることができる。人間と同様に聞くことができる。そして、見たもの、聞いたもの、読んだものを理解する。

最近、コンピュータ、AIは理解ができないから人間のほうが優れていると、AIを馬鹿にしている人がいますが、それはAIに対するその人の理解が足りないだけではないかと、私は言い返しておきたい。なんでAIの専門家でもない人がAIの限界を語るんだ、大概にせえと、私は時々心の中で叫んでいる。今日はついでに叫んでおきます。

コンピュータ、AIは、人間同様に森羅万象を理解し始めた。物事を理解し始めたということで、ここで止まりません。

Computingの6段階



43

さらに推論をするということでもあります。しかし推論にとどまらない。

Computingの6段階

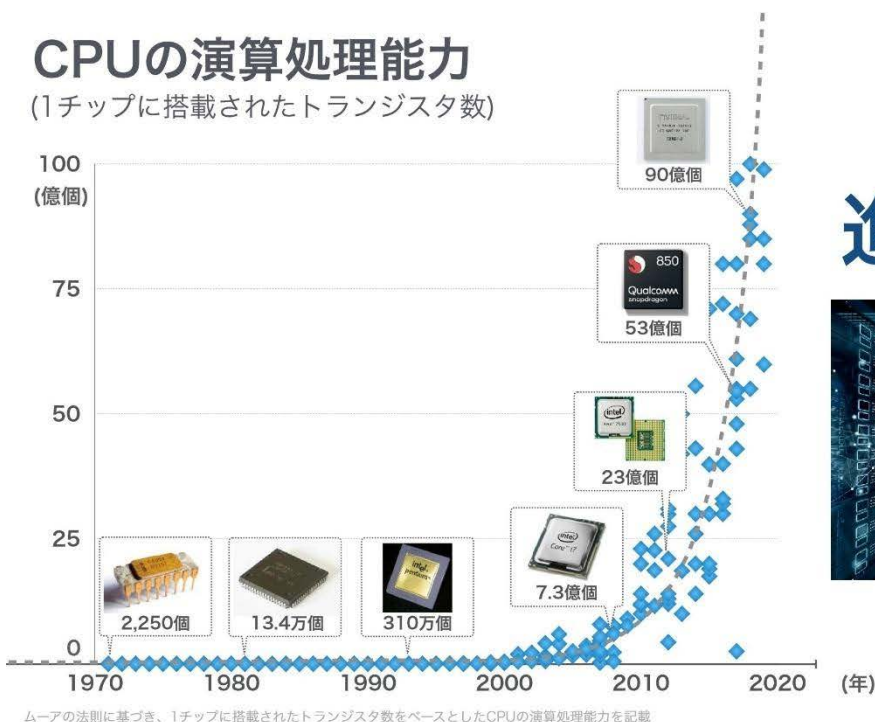


44

ついに人間の特権であった創造するという域まで、AIが徐々に徐々に、一歩ずつ入り始めた。まだ人間を超えたわけではありません。でも人間を超えつつある。

すでに局所局所では人間を超えた部分がたくさん出てきた。だからAI将棋に、将棋の名人が最近敵わなくなってきた。天気予報も漁師のおじいさんの背中が明日は時化がくるとか言っていた

のが、天気予報に最近敵わなくなって。漁師のおじいさんも天気予報を見る。明日の嵐を推論するということです。



進化が加速



(出所) 各社CPUメーカーの開示情報を基に当社作成 45

なぜそうなったのか。なぜこういう順番でなきゃいけなかったのか。それはコンピューティングパワーの問題ですね。人間の脳細胞、大脳には約 30 億個のニューロンがあるとされています。この大脳の中にあるニューロン、これがくっついたか離れたか、この二進法でものを計算したり記憶したり、考えたりするわけですが、人間の脳は二進法で考えています。記憶しています。

同じようにコンピュータも二進法で、トランジスタがくっついたか離れたかでものを計算したり、記憶したり、推論したりする。この能力が、トランジスタの数が少なかったんです。犬とか猫の脳細胞の数が少ないから、人間より知的活動が小さい。同じようにコンピュータもハードウェアのトランジスタの数が少なかった、ただそれだけ。物理的なハードの問題だと。

これが二次曲線で増えました。2018年には30億個を超えました。さらにそこからどんどん、どんどん超えていっているということです。

AI時代の到来

CPU



GPU



DPU

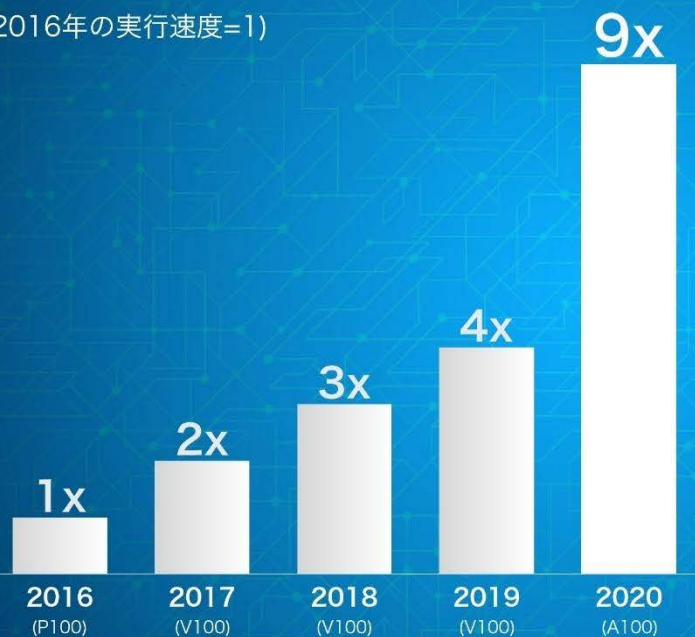


GPU: NVIDIA RTX A6000
DPU: NVIDIA BlueField-2 DPU 46

さらに CPU だけではなく、最近 AI に特化した GPU や DPU まで出てきました。これらを包含して、僕はこれから NVIDIA の時代がくると思っているわけです。

GPU性能 (HPCアプリケーションの実行速度)

(2016年の実行速度=1)



4年で
9倍

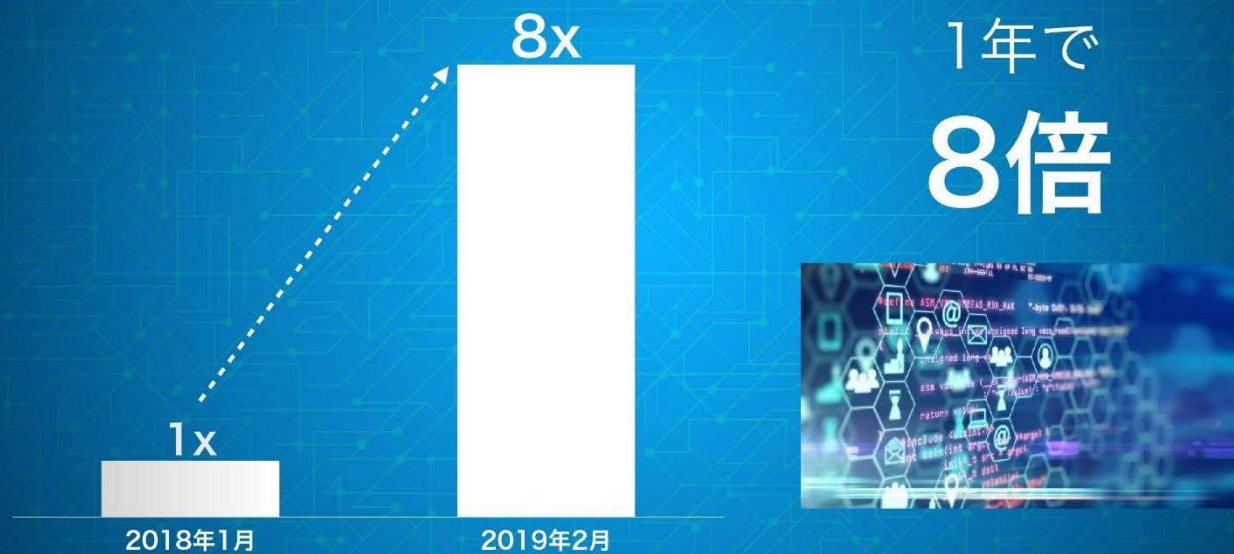


*GPU性能：2016年 NVIDIA P100の実行速度を1として、複数ベンチマークによって測定した実行速度倍率の幾何平均
*HPC：ハイパフォーマンスコンピューティング (出所) NVIDIA 47

NVIDIA のいろいろな調べの中でも、GPU の性能がこの 4 年間で 9 倍になりました。

学習アルゴリズムの効率 (AIモデル学習速度)

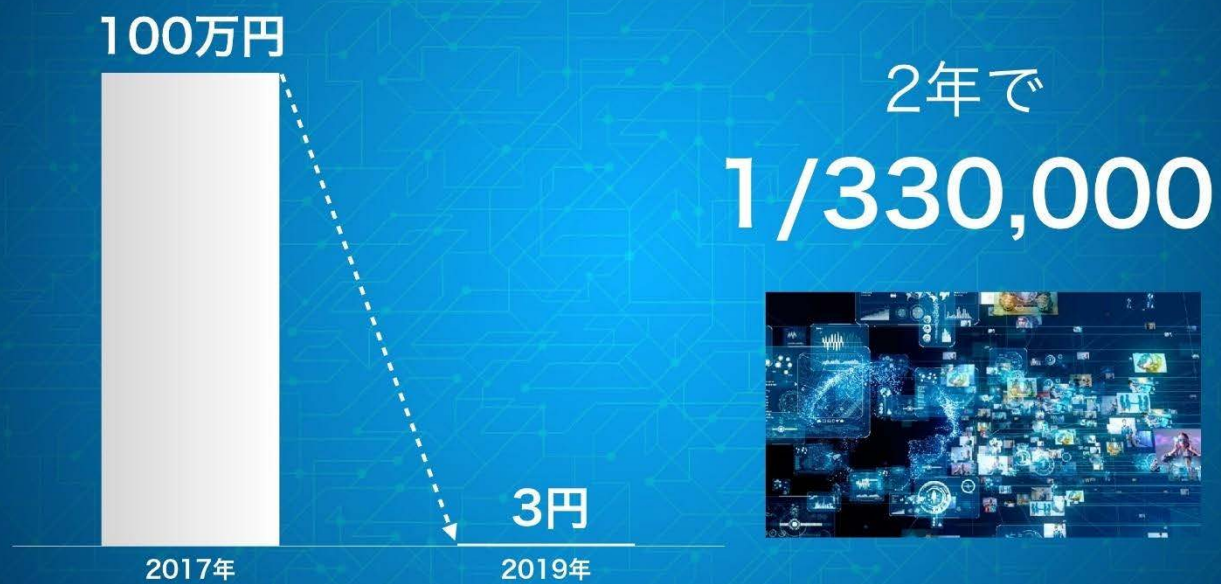
(2018年のアルゴリズム性能=1)



(出所) ARK Investment Management LLC, Stanford DAWN Deep Benchmark 48

学習アルゴリズムの効率は1年間で8倍になりました。1年で8倍です。

推論コスト (10億枚の画像分類にかかる費用)

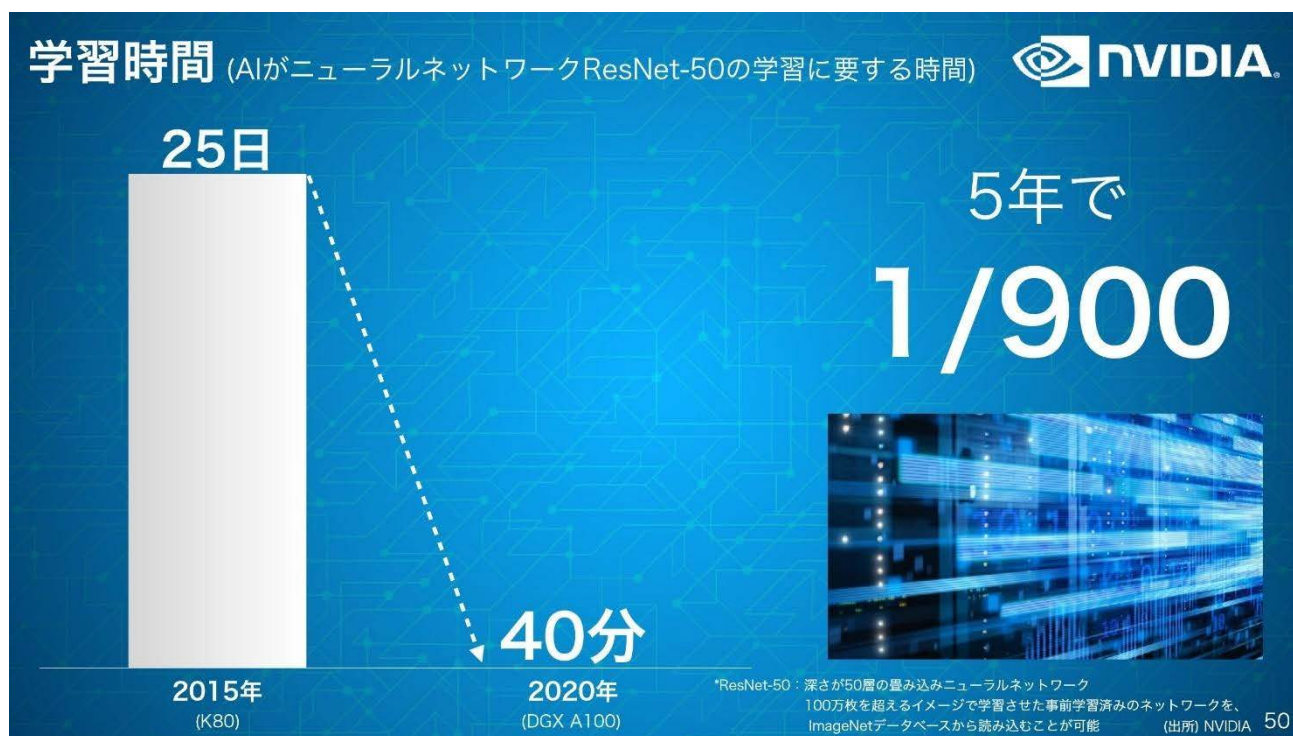


(出所) ARK Investment Management LLC, Stanford DAWN Deep Benchmark 49

推論コストは、2年間で33万分の1になりました。

10億枚の画像を見て、犬なのかキツネなのかイタチなのか、あるいは猫なのかヒョウなのかライオンなのかということ、人間は経験値で、子供のときから徐々に学習して、見分けることができます。コンピュータも10億枚解析すると見分けられるようになるのです。

10億枚の画像を解析するのに100万円かかっていたのが、2年間で3円になったということです。3円になったならば、画像認識は、もう人間がいろいろ学習するよりも速く、安く、正確になってきたわけです。



ニューラルネットワークの学習時間も、5年で900分の1になりました。コンピューティングの世界が、CPUに加えてGPU、DPU、そして、これらがどんどん学習していくということで、賢くなってきた。

理解	推論	創造
		
<p>文章読解 得点 (人間の平均比)</p> <p>+24%</p>	<p>創薬シミュレーション 予測スピード (従来比)</p> <p>1,000倍</p>	<p>プログラミング 機械学習モデルのコード</p> <p>AIが生成</p>
<p>(出所) NVIDIA (NVIDIA Megatron BERT)</p>	<p>(出所) NVIDIA (Caitech OrbNet)</p>	<p>(出所) Matt Shumer, ITmedia</p>

さっき 6 つの段階と言いましたね。計算する、記憶する、検索する。それに加えて、理解する、推論する、創造するということでもあります。人間の 1.24 倍、読解力を持つに至ったということですね。

AI、コンピュータには読解力がないと言っている人がいますが、とんでもない間違いです。英文では少なくとも、英語をしゃべることができる人の 1.24 倍、読解力も持った。何を書いてあるかが理解できるまでいったということです。1,000 倍の総訳スピードで推論をすると、創造をするということでもあります。

SoftBank Vision Fund (96社)

SoftBank Vision Fund 1 (83社)

SoftBank Vision Fund 2 (13社)

arm	ROIVANT	COMPASS	Loggi	作业帮 (Zuoyebang)	cruise	fair	Rappi	贝壳 (Beike)	unacademy
Fanatics	paytm	KATERRA	金建集团 JINJIAN GROUP	REEF	DiDi	getaround	creditas	alto	ShipBob
wework	OYO	AUTO1 GROUP	tokopedia	Alibaba Local Services	flexport.	KLOOK	C2FO	lenskart.com	掌门教育 zhangmen.com
IMPROBABLE	众安保险 zhong'an	满帮 (Full Truck Alliance)	Uber	firstory	NURO	GET YOUR GUIDE	ENERGY VAULT	KARIUS	腾讯 TENCENT
GUARDANT	mapbox	COHESITY	Grab	zume	CAMBRIDGE MOBILE TELEMATICS	Gympass	VNLIFE	DiDi Autonomous	
nauto	ByteDance	policy bazaar	DOORDASH	RELAY	DELHIVERY Small World	CloudMinds	OLA	BEHAVOX	
VIR	osi soft	light	Z	Globality	OakNorth	FUNGIBLE	goPuff	Encoded THERAPEUTICS	
plenty	平安好医生 (PingAn Good Doctor)	coupang	view	GROFERS	Clutter	Collective Health	+ JV / 関連会社等 13社	biofourmis	
brain corp	医联体 YI LIAN TI	Opendoor	INFORMATION ANYWHERE	Kabbage	瓜子 二手车直卖网 Guazi.com	Greensill		XtalPi	

52

ということで、われわれ SVF は WeWork とかで大赤字だと言って、SVF は終わったと結論づけていた人がたくさんいたと思いますが、とんでもない。まだ始まったばかりです。現にこの3カ月で1SVF だけでも1.2兆円利益が増えました。すでに約100社に出資しています。

今日はいくつかの例を申し上げます。先日、私は SoftBank World でビデオをいくつか見せたので、それを見た人にとっては繰り返しのビデオがいくつか出てきますけれども、ちょっと我慢して見ていただきたいと思います。

NURO

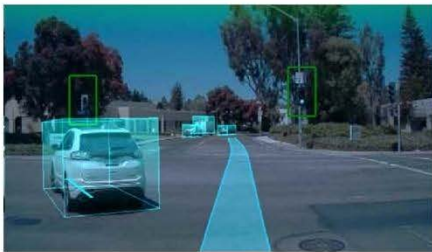
AI × 配送ロボット

53

多くの人は初めてだと思いますが、例えば Nuro。これは AI で、配送ロボットですね。

NURO

理解



標識を理解
障害物を認識

推論



事故リスクの推論

54

道路標識を認識し、ストップサイン、制限速度が 45 キロ、一方通行といった道路標識を認識して、理解します。障害物も認識します。

車、大きなバスなどの物陰から、歩行者が突然飛び出してくるのではないかと推論します。飛び出してきたらスピードを緩めて止めよう、避けようとして推論しながら、自動運転の戦略を考えるということです。

すでにアメリカでは、ショッピングで、買った物を家に持って帰るのではなく、ほしいものを指定すれば、家まで運んでくれる。道路標識を認識しています。自転車に乗った子供がいたら、飛び出してくるかもしれないということを推論しながら、避けることを未然に準備しておく。



これはもう想像の域ではなくて、例えば Domino's Pizza、Walmart、Kroger、米国ドラッグストア最大手 CVS などが配送は Nuro に任せようと続々と正式な契約をしました。また、実験を開始した状況で、名前はまだ公表できないのですが、世界的な配送会社など、いろいろな会社が続々とここに加わってきているということです。

The word "cruise" is written in a bold, red, lowercase sans-serif font. The background of the slide is a light blue color with a complex network of grey lines and dots, resembling a molecular or neural network structure.

AI × 自動運転

56

もう一つ、Cruiseの自動運転のビデオも見ていただきたいと思います。

これは実際のビデオです。ここに人は乗っていません。運転席では透明人間のようAIが勝手にハンドルを操作し、ブレーキをかける。電気自動車に頭脳を付けて、ストップサインで自動的に止まる。

いろいろな交差点も渡っていきます。道路を今、快適に走っています。もう、高速道路とか町の中にも行けます。町の中、トラックの物陰、交差点、人がいっぱい渡ってきたとか、交差点で左折したりとか、工事の現場に人がばっと出てくるとか、反対車線に行かなきゃいけないとか。霧の中でも運転できると。

運転席のない初めての乗用車の設計が終わって、量産の準備に入っており、これから数年後には大量生産が始まって、一般の道路をどんどん走り始めるということですね。

日本ではまだ規制だらけで、こういう自動運転の車は全然走れません。日本の一番大きな産業は裾野の広い自動車産業ではないかと思うのですが、日本のこのような頭脳に対する規制が、一般の道路をテスト走行できない。これは1日も早く、日本も改善しないとイケないんじゃないかと思いません。



(Full Truck Alliance)

AI × 物流

こういう自動運転の世界がどんどんきます。例えばトラック配送なんかも変わります。われわれのグループのもう1社、Full Truck Alliance、この Manbang は、なんと長距離のトラックの運転手だけで440万人、中国全土の長距離トラック配送運転手の90%が、ここで活躍しているのです。

マーケットシェア(中国)



No.1



*1 2019年11月から2020年10月までの年間の大型トラックのアクティブユーザー数が中国の大型トラック（物流用）の推定総台数に占める割合で算出
*2 同社のサービスに月に1回以上ログインしたトラック運転手の数(2020年9月末時点)



この世界にどんどんと、今のような新しい AI の世界がやってくる、ものを運ぶ根本的な考え方が変わる。

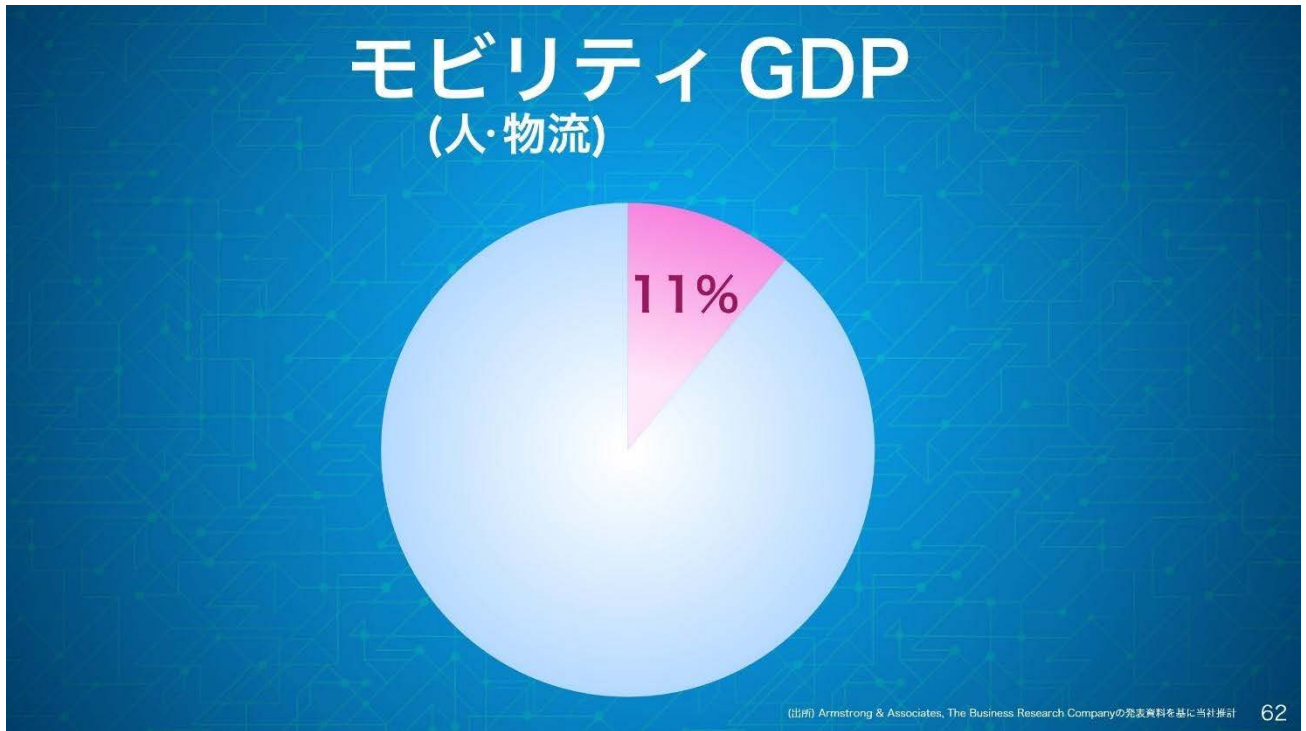
Nuro と Cruise の、ものを運ぶ、人を運ぶというものが出てくると、われわれ SVF で投資している DiDi や Uber、フードデリバリーの DoorDash、今紹介をした Manbang、Loggi、いろいろな会社がたくさん、これは全部 SVF が投資している会社です。物流、そして人を運ぶ関連の会社ですね、ロジスティクス。これは全部影響を受ける。進化しなきゃいけない。

その進化の核になるピンクの二つの会社があれば、彼らが行っているサービスを進化させられる。いきなり今から数年後にデビューするときには、従来の人を運ぶ、ものを運ぶ、今アベイラブルなサービス価格と同等か、それ以下でデビューします。デビューがその価格ですが、そこから数年経っていくと大体、5分の1から10分の1に下がるということです。

ものを運ぶ、人を運ぶものが5分の1から10分の1のコストで運べるようになったら、ものを運ぶことの今までの人々の常識が変わります。人々のライフスタイルが変わる。

ものを頼んで翌日届くのが今日届く、今すぐ届く、10分以内に着く。しかも人が運ぶよりも安く着くとなると、いちいちパジャマから外着に着替えてコンビニに買い物に行こうかというのが、ス

マホで呼べば、僕らが子供のときにスーパージェッターなんていう漫画がありましたが、呼べばびゅっとくと。こういう時代がやってくよとしているということです。



人やものを運ぶモビリティの世界は世界の GDP のなんと 11%ある。世界の GDP の 11%の常識が根底から変わる。

SVF2投資先

贝壳

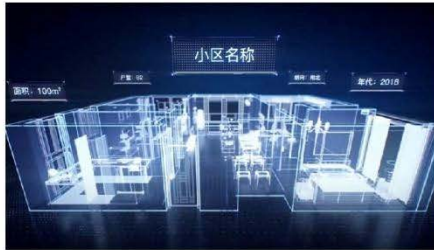
找房大平台
(Beike)

AI × 住宅売買

63

家の売買も変わります。われわれのグループ会社の Beike が 2 カ月ぐらい前に上場しました。

理解



住宅情報を分析
顧客の趣向を理解

推論



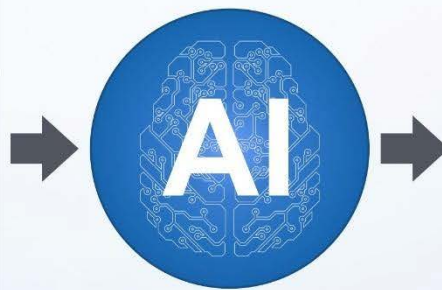
成約を予測
最適な住宅を推奨

64

住宅情報を分析して、顧客の趣向を理解する。成約する価格を予測して最適なマッチングを行うということです。

住宅取引の効率化

データベース	
物件数	2.3億件
MAU	3,900万人
仲介者	46万人
取引数 (2019年)	220万回



AI住宅売買プラットフォーム
(年間取扱高30兆円)

*物件数：住宅物件データベース収録数(2020年6月末時点)、MAU：月間平均モバイルユーザー数(2020年4月-2020年6月)、
仲介者：プラットフォーム利用仲介者数(2020年6月末時点)、取引数：2019年実績、年間取扱高：Gross Transaction Volume(2019年実績) (出所) Beike F-1

65

Beike には 2 億 3,000 万件の住宅物件がデータベースに入っています。日本の人口が 1 億 2,000 万人です。

月間、家を買いたい、売りたい人が4,000万人弱もいて、仲介業者も46万人、取引回数は年間220万回。取引金額で30兆円。30兆円分、家が売り買い、今すでにされているという、こういうプラットフォームが上場しました。日本では考えられないレベルにすでに中国はきています。

物件を探すのに写真や間取り図を見るのではなく、AIが全部示してくれる。間取りだけではなく、家具までAIがレコメンドしてくれる。家具の入替えや内装もAIがどんどんレコメンドして、「この間取りに、あなたは20代のカップルですね」と。「あなたは60代のカップルだ、あなたは和風がいい、あなたは中華風」とか。このようにAIがどんどん、どんどんレコメンドして間取りに貼り付けてくれる。成約率がどんどん上がっている。



Beikeは上場しまして、われわれが投資した金額1,400億円に対して、今日現在の価格は8,300億円。われわれはこれで約7,000億円利益を出したということです。まだ1年経っていない。これはSVF2の投資ですね。

SVF1でWeWorkとかでちょっと不人気になりましたので、SVF2はSBG100%の出資で今、行っていますが、SVF2、今絶好調で、かなり利益を出している。この1個の案件だけで7,000億円利益を出した。まだ1年経っていません。SVF2ですから、8カ月かそれぐらいだったと思います。



AI × デジタル医療

67

もう一つ、これも SVF2 の会社ですが、Biofourmis。



理解



生体/臨床データを解析

推論

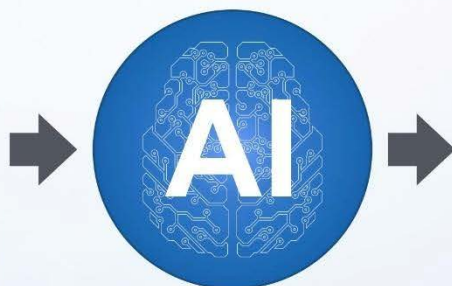


心臓疾患等を予知
最適な投薬量を推定

68

これも AI を使って心臓疾患を予知し、最適な投薬量を推定します。皆さんの周りでも心臓発作や心臓病で亡くなった人がいるのではないかと思います。アメリカでは、一番の死因は、もはやがんではなく、心臓疾患です。

患者の症状管理



AIデジタル医療プラットフォーム

(出所) Biofourmis

69

これを、皆さんの家族、皆さん自身が心臓発作を起こす2週間前に、「あなたは今から2週間以内に心臓発作を起こします」と予知して知らせてくれたならば、死ななくて済むのです。

データベース



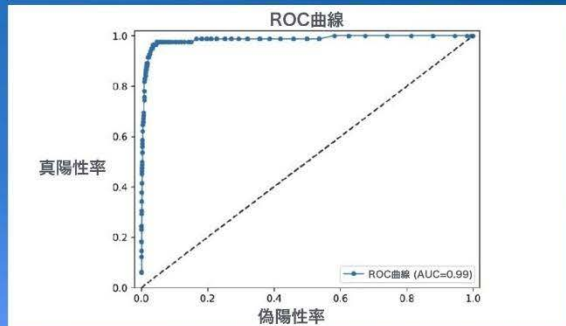
410万人の患者データをAI解析

*410万人：循環器系疾患、腫瘍(主に癌など)を持つ患者数、2020年10月時点 (出所) Biofourmis

70

実際に410万人の心臓疾患の患者データをデータベースに入れ、分析。提携パートナーは大手製薬会社、Novartis、Astra Zeneca、Mayo Clinicや、世界的な病院と提携をしまして、データができました。

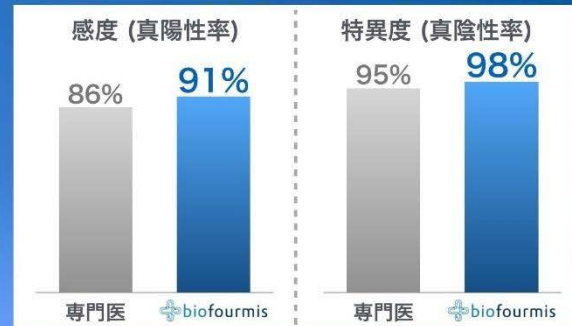
心不全の予知



**14日前に予知
(精度99%)**

*急性心不全患者120名を60日間モニタリング(Mayo Clinicで実施された研究、(出所) ClinicalTrials.gov (NCT02391987))

不整脈の検知



専門医を超える精度

*121,346の心電図サンプルを用いてBiofourmisの検出アルゴリズムと専門医の精度を比較 (出所) Biofourmis "Arrhythmia Detection by Deep Learning and Multidimensional Representation"

71

14日前までに精度99%で予知をしてくれる。99%の確率で、あなたの心臓の異常を予知してくれる。

AI活用の効果

最適な投薬



心不全治療薬の利用率
+21%

再入院率の減少



再入院率
-70%

医療費の減少



医療費
-38%

心不全治療薬の利用率：(出所) Desai AS, et al. Outpatient Strategies for Heart Failure Management. Presented at: American Heart Association Scientific Sessions; Nov. 16-18, 2019; Philadelphia
再入院率・医療費：(出所) Levine, David M., et al. "Hospital-Level Care at Home for Acutely Ill Adults: A Randomized Controlled Trial." Annals of Internal Medicine (2019)

72

結果どうなったかということ、心不全のための最適な薬の処方ができる。心臓疾患の人は入院を繰り返す人が多いのですが、再入院の率が70%減る。医療費も、日本は医療費が相当かかっています。ぜひ日本政府も、早くこういうことを知ってほしいと思うのですけども。心臓疾患の医療費が

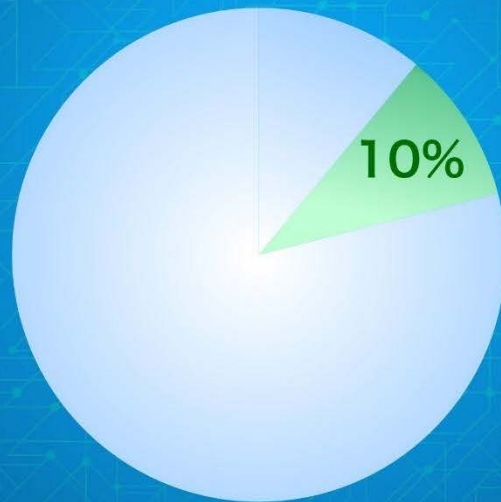
4割近く減る。予知してくれるだけで減る。重症化しないわけです。ということで、ちょっと動画を1分ぐらい見てみます。

FDAの認可が出ています。患者本人だけでなく、かかりつけのお医者さんにリアルタイムで異常値を伝える。ですから、お医者さんもその患者に直接連絡。患者も連絡して、すぐに医療、処方をするということです。



メディカル関連でAIが人々の命を助ける。最近Vir Biotechnologyでコロナ対策もしていますし、がんの対策のGuardant、いろいろな会社が、ここにずらっとあります。これは全部医療関係のAIカンパニー群です。

メディカル GDP



(出所) The World Bankの発表資料を基に当社推計 74

医療関係が、世界の GDP の約 10%あります。

SVF1投資先



AI × 新素材開発

75

さらに、創造することを AI が手助けをするようになりました。

理解



自動化による
大量の実験・データ

推論・創造

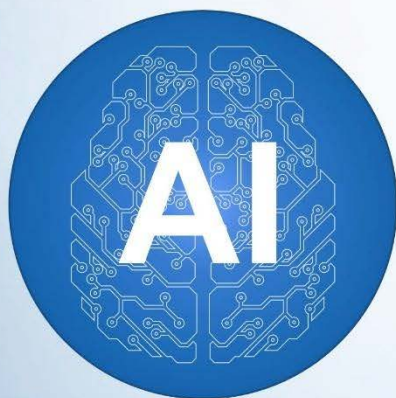


革新的な
新素材の開発

76

理解をするだけでなく、推論するだけでなく、さらに創造するということです。

革新的な新素材開発



実験の自動化



遺伝子組換え
微生物の設計



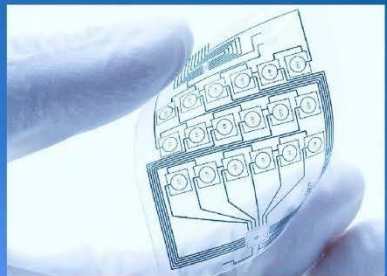
AIを活用した新素材開発

77

AI が実験の自動化と、遺伝子を組み換える、これを AI が微生物の設計をして、分子のレベルで新たな分子を創り出す。地球上に存在していなかった新たな分子の組み合わせを創り出す。まるで神の世界ですね。

活用事例

電子製品向け
高性能フィルム



次世代
光学フィルム



天然成分由来
虫除け剤

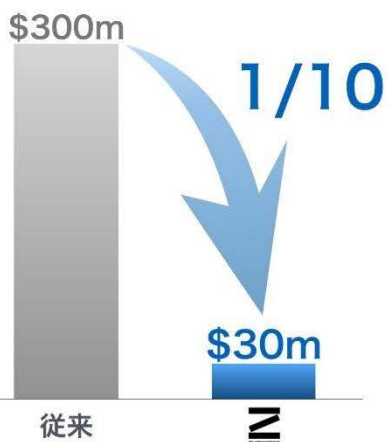


幅広い分野で革新的な素材を開発

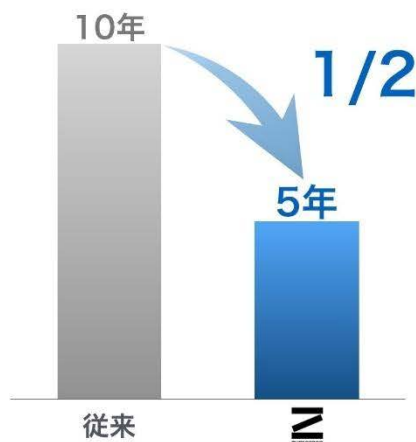
78

これを何に活用するかというと、例えば電子製品向けの高性能フィルム、電子基板みたいなやつです。それから、フレキシブルに折り曲げることのできるスマホとか、蚊が来ない成分とかの新しい素材を、こういう会社で作っていく。

素材開発コスト



素材開発期間



低コスト・短期間で開発

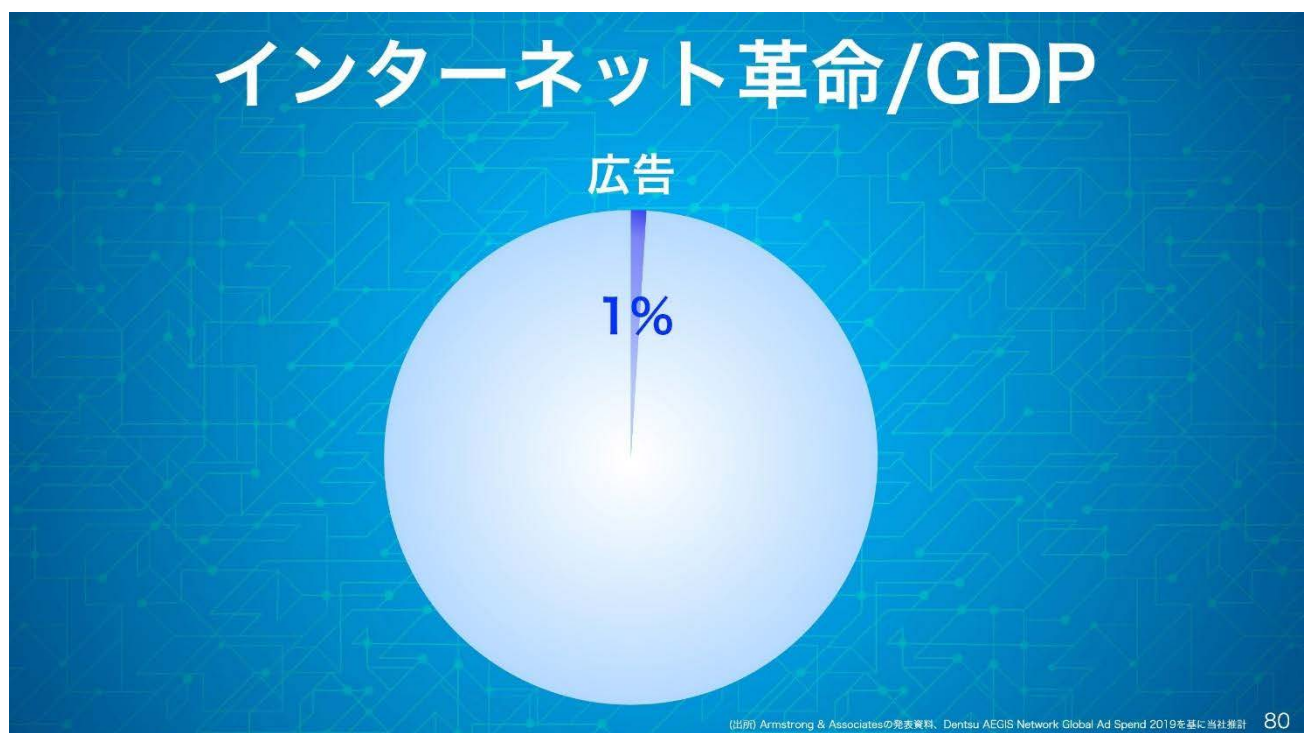
*開発期間：市場投入までに要する期間 (出所) Zymergen

79

この新しいナノテクノロジーの世界の開発コストが10分の1ぐらいになって、開発期間も半分に減るということです。

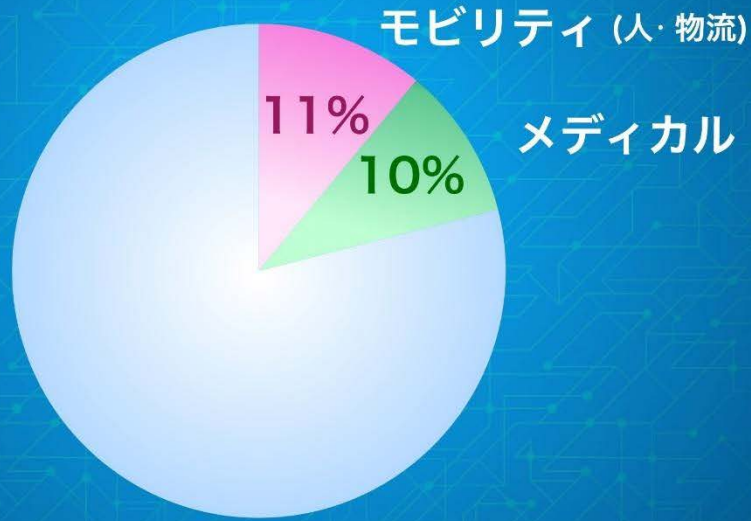
従来のやり方は、コロナの PCR 検査のようにピペットで1個ずつ挿して入れるわけですが、Zymergen では使い捨てのチップに入れてやっています。

現在のやり方は、ロボットで並列にダンダンダンダンと埋め込んでいく。それを超音波で、ナノリットルの世界、超音波の水蒸気みたいなやつを、パンと上に吹き上げる。この水滴を上を超音波で押し上げるのですね。すごいですね。あの水滴がピューッと行って、上の底にへばり付く。これで新しい組み合わせを作る。人間の手でいちいちピペットを操作するのではなく、新しい分子の組み合わせをこれで作るということです。



従来のインターネット革命は広告を主に置き換えた。従来のメディアから新しいメディアに、インターネットが広告のビジネスモデルを置き換えていった。GAF A は特にここを中心にやったわけです。

AI革命/GDP

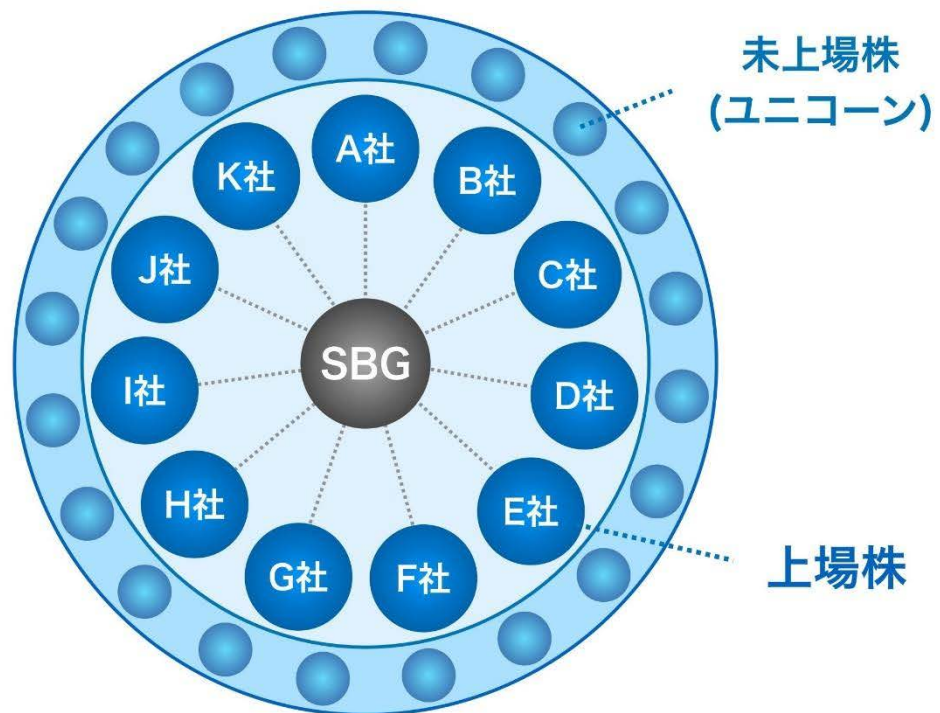


(出所) Armstrong & Associates, The Business Research Company, The World Bankの発表資料を基に当社推計 81

この従来のインターネット革命に対して、AI革命は、今日紹介をした事例だけでも、例えば人と物を運ぶモビリティで物流、乗り物を変える。医療の世界を変える。今日は説明していませんが、Fintech、エンターテインメントを変えるとか、もう続々とあるわけです。

ということで、話し出せば48時間でも、1個1個の会社について情熱を持っていくらでもしゃべりますが、切りがないので事例はそのぐらいにします。

AI革命



「最近、SBG は上場株にも投資をし出したね」、「何をしているのだ」ということですが、AI 革命です。

AI 革命の先駆者は、今紹介したような SVF 経由のユニコーンだけではないと私は思っています。彼らは AI 革命の新しいルーキー、新しいスーパースターですが、革命の本命は、実はもう上場会社の中にあると思っています。

AI 革命で、それをサポートする投資家になるのですね。上場会社は対象外と、誰がそう決めたのだと。私は情報革命を担う会社であれば、上場していようがいまいが関係ない。両方それぞれ活躍する会社を入れていく。

保有現物株 ('20年9月末時点)

Amazon	Microsoft
Facebook	TSMC
Zoom	Paypal
Alphabet	Salesforce
Netflix	NVIDIA
Adobe	その他(米国外)

SBGが保有するNVIDIAも上場会社
詳細は2020年度第2四半期決算短信を参照 86

例えばここにあるような Amazon や Facebook。私は最近朝から晩まで毎日 Zoom を使って、もう海外出張をしなくても会議をしたりしていますが、こういう会社に上場株として、投資を開始しました。

あと1週間ぐらいで開示されるアメリカのルールがありますから、そのルールに基づいて、金額まですべて開示されます。

比率は、すでに現物株に 1.8 兆円投資しました。デリバティブは 0.4 兆円です。先ほど言いましたように、デリバティブは若干の飛び道具です。デリバティブは、儲かるときは 2 倍、3 倍になりますが、失敗すると現物株よりもゼロになるリスクが高い。

しかし、われわれから見れば、ナスダックの鯨とか言われたって、われわれが保有しているものの保有株式全体のたかだか 1% ぐらいですよ。これが全部ゼロになっても誤差だと。それより、アリババの株が 1 日 5% 動いたほうが、われわれにとってははるかに大きな影響があるということです。

コール・オプション

現在の価格で将来株を買える権利

リスクはオプション料に限定

89

ということで、われわれは、コール・オプションを中心とするデリバティブに投資をしていきます。コール・オプションは、現在の価格で将来その株を買うことができる権利です。コール・オプションの権利を 4,000 億円分ぐらい買いました。これがゼロになる可能性はあります。倍になる可能性もあるということです。

以上がわれわれの投資手法と内容です。

SBG経営体制の変更

取締役

代表取締役	孫 正義
取締役	ロナルド・フィッシャー
取締役	後藤 芳光
取締役	宮内 謙
取締役	サイモン・シガース
取締役 (社外)	飯島 彰己
取締役 (社外)	松尾 豊
取締役 (社外)	リップラー・タン
取締役 (社外)	川本 裕子

執行役員

会長 兼 社長執行役員	孫 正義
副会長 執行役員	ロナルド・フィッシャー
副社長執行役員 COO	マルセロ・クラウレ
副社長執行役員 CSO	佐護 勝紀
副社長執行役員	ラジーブ・ミスラ
専務執行役員 CFO 兼 CISO 兼 CSusO	後藤 芳光
常務執行役員	君和田 和子
常務執行役員 CLO	ロバート・タウンゼンド*
常務執行役員	ゲーリー・ギンズバーグ

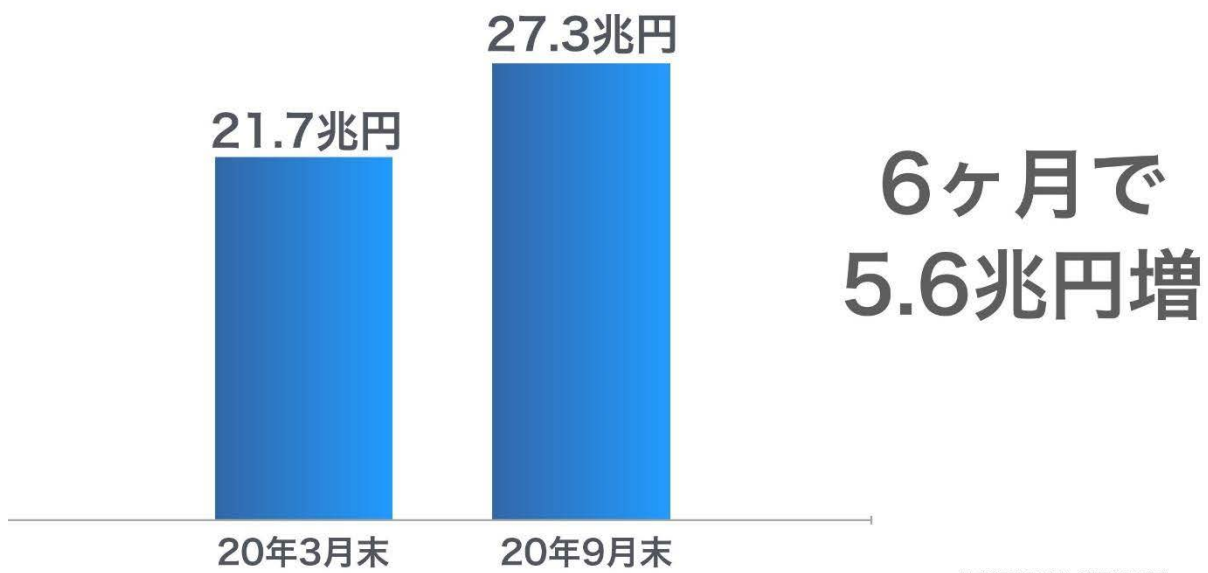
経営と執行を分離しガバナンス強化へ

*ロバート・タウンゼンドは2020年11月末までに辞任しシニアアドバイザーに就任予定。ティム・マキが執行役員CLOに就任予定。 91

最後になります。われわれは経営体制を変更いたします。最近世界中でガバナンスを強化せよという声が強くなってきています。特にSBGは、大体、孫正義は好き勝手ばかりやる。もう少しガバナンスを強化して、社内役員ばかりでは駄目だ。社外役員の比率を増やしなさいと。役員の数ももうすでにたくさんいますから、社外役員の数を増やすのもやりましたけれども、社内の役員の数が多過ぎると。

社内の役員は実行する側の役員として執行する側に専念して、それを管理、監督するのが本来の取締役会の役割ですから、管理、監督をする取締役会と、業務を執行していく側のマネジメントの二つに役割を分離する。内部分裂したとかいうことではなくて、孫がマルセロやラジーブを切っているのではないかということではないです。仲たがいしているわけではなく、役割を二つに分けるということです。このように役員の新しい体制、ガバナンスの強化ということです。

NAV (Net Asset Value)

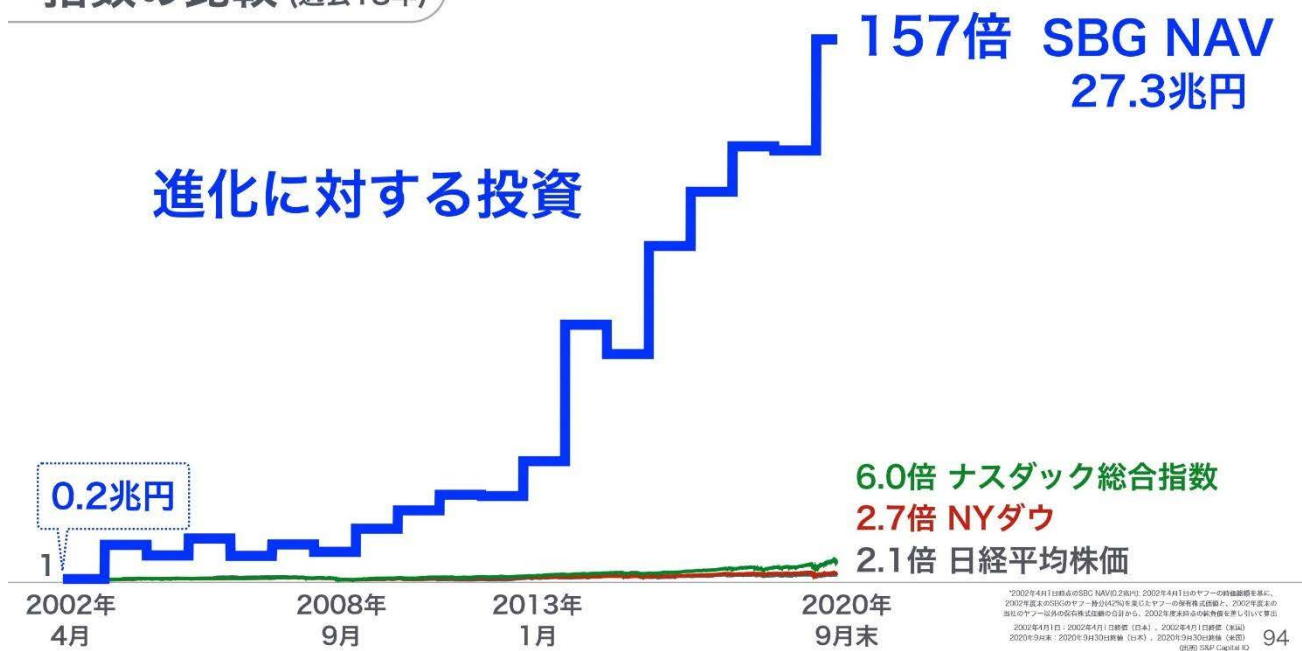


※ 株価：2020年9月30日終値（日本）、2020年9月30日終値（米国）
※ 資料："Sum of the Parts"の最終レポート（2020年9月30日時点）、本発表

93

最後、結論として振り返ります。純利益は、あまり気にしていない。史上最高、恐らく日本史上でも半年では最高かもしれません。ですが、その額よりもわれわれとしては、Net Asset Value、NAV を唯一の物差しとしてこれから見ていく。

指数の比較 (過去18年)



94

このNAVが157倍に、この18年間で増えた。



AIを制する者が未来を制す

99

AIを制する者が未来を制す。先ほど、いくつかの事例を動画で見させていただきましたが、そういうにおいを感じていただくためにお見せしました。



情報革命で人々を幸せに

われわれはAI革命への投資会社として、情報革命を押し進める一員です。革命というのは発明者だけで成り立つものではありません。

発明者に加え、リスクを取って資本を提供する。リスク資本ですね。貸し付けは貸し付けで大事ですが、担保もない、利益もまだ出ていないような会社まで含めて、リスクを取って資本を提供する者がいないと、革命の両輪、発明者とリスク資本提供者、この両輪があって成り立つと思うのですが。われわれはリスク資本を取る側の役割を担いながら、情報革命の一員として貢献したいと思っています。

以上が SBG がこれから向かう姿です。ありがとうございました。

IMPORTANT INFORMATION

Disclaimers

This presentation provides relevant information about SoftBank Group Corp. (“SBG”) and its subsidiaries (together with SBG, the “Company”) and its affiliates (together with the Company, the “Group”) and does not constitute or form any solicitation of investment including any offer to buy or subscribe for any securities in any jurisdiction.

This presentation contains forward-looking statements, beliefs or opinions regarding the Group, such as statements about the Group’s future business, future position and results of operations, including estimates, forecasts, targets and plans for the Group. Without limitation, forward-looking statements often include the words such as “targets”, “plans”, “believes”, “hopes”, “continues”, “expects”, “aims”, “intends”, “will”, “may”, “should”, “would”, “could” “anticipates”, “estimates”, “projects” or words or terms of similar substance or the negative thereof. Any forward-looking statements in this presentation are based on the current assumptions and beliefs of the Group in light of the information currently available to it as of the date hereof. Such forward-looking statements do not represent any guarantee by any member of the Group or its management of future performance and involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, including but not limited to: the success of the Group’s business model; the Group’s ability to procure funding and the effect of its funding arrangements; key person risks relating to the management team of SBG; risks relating to and affecting the Group’s investment activities; risks relating to SB Fund (defined as below), its investments, investors and investees; risks relating to SoftBank Corp. and the success of its business; risks relating to law, regulation and regulatory regimes; risks relating to intellectual property; litigation; and other factors, any of which may cause the Group’s actual results, performance, achievements or financial position to be materially different from any future results, performance, achievements or financial position expressed or implied by such forward-looking statements. For more information on these and other factors which may affect the Group’s results, performance, achievements, or financial position, see “Risk Factors” on SBG’s website at https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor. None of the Group nor its management gives any assurances that the expectations expressed in these forward-looking statements will turn out to be correct, and actual results, performance, achievements or financial position could materially differ from expectations. Persons viewing

this presentation should not place undue reliance on forward looking statements. The Company undertakes no obligation to update any of the forward-looking statements contained in this presentation or any other forward-looking statements the Company may make. Past performance is not an indicator of future results and the results of the Group in this presentation may not be indicative of, and are not an estimate, forecast or projection of the Group's future results.

The Company does not guarantee the accuracy or completeness of information in this presentation regarding companies (including, but not limited to, those in which SB Funds have invested) other than the Group which has been quoted from public and other sources.

Regarding Trademarks

Names of companies, products and services that appear in this presentation are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Important Notice – Trading of SBG Common Stock, Disclaimer Regarding Un-sponsored American Depository Receipts.

SBG encourages anyone interested in buying or selling its common stock to do so on the Tokyo Stock Exchange, which is where its common stock is listed and primarily trades. SBG's disclosures are not intended to facilitate trades in, and should not be relied on for decisions to trade, un-sponsored American Depository Receipts ("ADRs").

SBG has not and does not participate in, support, encourage, or otherwise consent to the creation of any un-sponsored ADR programs or the issuance or trading of any ADRs issued thereunder in respect of its common stock. SBG does not represent to any ADR holder, bank or depository institution, nor should any such person or entity form the belief, that (i) SBG has any reporting obligations within the meaning of the U.S. Securities Exchange Act of 1934 ("Exchange Act") or (ii) SBG's website will contain on an ongoing basis all information necessary for SBG to maintain an exemption from registering its common stock under the Exchange Act pursuant to Rule 12g3-2(b) thereunder.

To the maximum extent permitted by applicable law, SBG and the Group disclaim any responsibility or liability to ADR holders, banks, depository institutions, or any other entities or individuals in connection with any unsponsored ADRs representing its common stock.

The above disclaimers apply with equal force to the securities of any of the Group which are or may in the future be the subject of unsponsored ADR programs, such as SoftBank Corp. or Z Holdings Corporation.

Notice regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in any fund managed by a subsidiary of SBG, including SB Investment Advisers (UK) Ltd. (“SBIA”) and any affiliates thereof (the “SB Fund Managers” and each an “SB Fund Manager”) (such funds together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle collectively, the “SB Funds” and each an “SB Fund”). For the avoidance of doubt, the SB Funds include, among other funds, SoftBank Vision Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund I”) and SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund II”), which are managed by SBIA and its affiliates.

None of the SB Funds (including the Vision Fund I and Vision Fund II), the SB Fund Managers (including SBIA), any successor or future fund managed by a SB Fund Manager, SBG or their respective affiliates makes any representation or warranty, express or implied, as to the accuracy or completeness of the information contained herein and nothing contained herein should be relied upon as a promise or representation as to past or future performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation, or future performance of any successor or the future fund managed by a SB Fund Manager.

Information relating to the performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation has been included for background purposes only and should not be considered an

indication of the future performance of the relevant SB Fund, any other entity referenced in this presentation or any future fund managed by an SB Fund Manager. References to any specific investments of an SB Fund, to the extent included therein, are presented to illustrate the relevant SB Fund Manager's investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of any particular investment or security. The investment performance of individual investments of an SB Fund may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described in this presentation do not represent all of the investments made by the relevant SB Fund Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed therein were or will be profitable.

The performance of an SB Fund in this presentation is based on unrealized valuations of portfolio investments. Valuations of unrealized investments are based on assumptions and factors (including, for example, as of the date of the valuation, average multiples of comparable companies, and other considerations) that the relevant SB Fund Manager believes are reasonable under the circumstances relating to each particular investment. However, there can be no assurance that unrealized investments will be realized at the valuations indicated in this presentation or used to calculate the returns contained therein, and transaction costs connected with such realizations remain unknown and, therefore, are not factored into such calculations. Estimates of unrealized value are subject to numerous variables that change over time. The actual realized returns on the relevant SB Fund's unrealized investments will depend on, among other factors, future operating results, the value of the assets and market conditions at the time of disposition, any related transaction costs and the timing and manner of sale, all of which may differ from the assumptions and circumstances on which the relevant SB Fund Manager's valuations are based.

Past performance is not necessarily indicative of future results. The performance of an SB Fund or any future fund managed by an SB Fund Manager may be materially lower than the performance information presented in this presentation. There can be no assurance that each SB Fund or any future fund managed by the relevant SB Fund Manager will achieve comparable results as those presented therein.

The actual realized return on unrealized investments by an SB Fund may differ materially from the performance information indicated in this presentation. No assumption should be made

that investments identified and discussed in this presentation were or will be profitable, or that investments made in the future will be comparable in quality or performance to the investments described therein.

Third-party logos and vendor information included in this presentation are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that an SB Fund Manager, an SB Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by an SB Fund Manager or SBG will work with any of the firms or businesses whose logos are included in this presentation in the future.

SBIA manages separate and independent operations and processes from those of SBG and any SB Funds managed by SBIA, including the Vision Fund I and the Vision Fund II, are solely managed by SBIA.

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリス

ク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」

(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測又は予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支

援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対し、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びその関係会社を含む SBG の子会社（以下「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」）と SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」）を含み、それぞれ SBIA とその関係会社によって運用されています。

SB ファンド（ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 を含む）、SB ファンド運用会社（SBIA を含む）、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフ

パフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォ

パフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、本資料に記載されるパフォーマンス情報と著しく異なる可能性があります。本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むものである、又は、将来行われる投資が本資料に説明される投資と質又はパフォーマンスの点で同等であると仮定すべきではありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBIA は、SBG から別個独立した業務プロセスを運用しており、ビジョン・ファンド 1 及びビジョンファンド 2 を含む SBIA によって運営されている SB ファンドは、SBIA 単独で運営されています。